

【平成24年度学則】

保健学専攻 博士前期課程
臨床検査・生命科学分野

I. 分野基幹科目

授業科目	担当者	講義概要
病理学特論	藤井 雅彦 (病理学)	腫瘍の形態学的特徴についての検討。 1. 良性腫瘍と悪性腫瘍の形態学的な違いについて解説する。 2. 肺がん、胃がん、大腸がん、子宮がん、乳がんなど代表的な悪性腫瘍の病理形態について解説する。
		学 習 目 標
		1. 腫瘍の性状について理解する。 2. 代表的悪性腫瘍の病理形態像を理解する。
		授 業 計 画
		1. 腫瘍の性状についての解説 2. 良性腫瘍と悪性腫瘍の病理形態学的な違いについて(1) 3. 良性腫瘍と悪性腫瘍の病理形態学的な違いについて(2) 4. 肺がんの病理形態像(1) 5. 肺がんの病理形態像(2) 6. 肺がんの病理形態像(3) 7. 胃がんの病理形態像(1) 8. 胃がんの病理形態像(2) 9. 大腸がんの病理形態像(1) 10. 大腸がんの病理形態像(2) 11. 子宮頸がんの病理形態像(1) 12. 子宮頸がんの病理形態像(2) 13. 子宮体がんの病理形態像 14. 乳がんの病理形態像(1) 15. 乳がんの病理形態像(2)
		評 価 方 法 受講態度(70%)、レポート(30%)
細胞診断学特論	安井 英明 (細胞診断学)	講義概要 多段階発癌過程における、境界病変、前癌病変とされる病変について、その組織・細胞学的特徴を非腫瘍性細胞、及び悪性腫瘍細胞との形態学的比較を元に解説し、さらに免疫組織化学的検索等による知見を元に、癌化に関与すると考えられる各種蛋白の役割につき解説する。
		学 習 目 標
		多段階発癌過程早期イベントである境界病変、前癌病変について、その組織学的、及び細胞学的特徴を非腫瘍性細胞、及び悪性腫瘍細胞との形態学的比較を元に理解する。
		授 業 計 画
		1. 境界病変の形成メカニズム概論(2回) 2. 前癌病変の形成メカニズム概論(2回) 3. 境界・前癌病変の組織学的特徴総論(2回) 4. 境界・前癌病変の細胞学的特徴総論(1回) 5. 境界・前癌病変の組織学各論(消化器)(2回) 6. 境界・前癌病変の細胞学各論(消化器)(2回) 7. 境界・前癌病変の組織学各論(呼吸器)(2回) 8. 境界・前癌病変の細胞学各論(呼吸器)(2回)
		評 価 方 法 レポート(50%)、口頭試問(50%)
血液学特論	東 克巳 (臨床血液学)	講義概要 血液疾患の成因・病態を追求し理解を深め疾病の本態を考察する。また、血液疾患の成因・病態の解明や診断に役立つ血液学的検査法の理論や技術を身につける。
		学 習 目 標
		血液疾患の具体的症例について検査所見から成因・病態の診断が出来るよう血液学的検査法を習得する。
		授 業 計 画
		1. 造血の仕組み(2回):造血組織の構造と機能、造血幹細胞の性状と分化 2. 貧血の成因・病態と臨床検査所見の解釈(3回) 3. 白血球の異常 4. 造血器腫瘍(3回):急性白血病、慢性白血病、悪性リンパ腫それぞれ診断のプロセスと臨床検査所見の解釈 5. 止血機構の仕組み(2回):血小板、血液凝固因子の性状と機能 6. 血小板異常と臨床検査所見の解釈 7. 血液凝固因子異常と臨床検査所見の解釈 8. 血栓性疾患と臨床検査所見の解釈 9. 血液凝固疾患治療のモニタリングと臨床検査所見の解釈
		評 価 方 法 受講態度(40%)、レポート(40%)、口頭試問(20%)

感染症学特論	森田 耕司 (臨床微生物学)	講義概要	感染症の歴史を紹介し、病原体の分類と病原性、主要な感染症の病態について解説する。さらに、感染症サーベイランス(infectious disease surveillance)の概要について解説し、インターネットを利用した感染症情報の調査方法〔国立感染症研究所(NIID)、米国疾病管理予防センター(CDC)を拠点とする〕を紹介する。
		学習目標	1. 微生物の進化過程とその要因を理解する。2. 感染症の変遷とその要因を理解する。3. 感染症サーベイランスの意義を理解する。4. 国内外における感染症の現況を知る。
		授業計画	1. 地球カレンダーで見る微生物の誕生と進化 2. 海外における感染症の歴史 3. 日本における感染症の歴史(先史時代、古代、中世) 4. 日本における感染症の歴史(近世から現代まで) 5. 代表的な感染症と原因微生物(細菌) 6. 代表的な感染症と原因微生物(真菌と原虫) 7. 代表的な感染症と原因微生物(ウイルス) 8. 検疫と感染症サーベイランス 9. 化学療法の歴史と化学療法の現状 10. ワクチンの歴史と感染予防の現状 11. 天然痘根絶変遷ポリオ根絶戦略 12. 結核症と結核の疫学 13. HIV感染とAIDSの疫学 14. 感染症サーベイランスシステム 15. 国内外における感染症の現状
		評価方法	受講態度(40%)、レポート(40%)、口頭試問(20%)
		講義概要	感染症予防必携:(財)日本公衆衛生協会発行を基礎知識として、病原微生物の氾濫:青土社をテキストに感染症発生の背景を考察する。具体的には、教員および履修者で章を分担し、担当者は関連する論文も読み加え、病原体の発生と機序、診断法、予防法、最近の流行傾向と環境変化の影響等まで幅広く議論する。
感染症疫学特論	坂内 久一 (臨床検査学) 宮澤 博 (臨床検査教育学)	学習目標	感染の3大要因(病原体、感染経路、宿主応答)を理解し、疾病の予防、感染拡大防止にどのように対応することが適当であるかを代表的疾患について述べられること。また、血清疫学研究手法である高感度酵素免疫測定法の原理と応用について理解する。
		授業計画	1. 感染症の歴史(1回 坂内) 2. 感染の3大要因(1回 坂内) 3. SARS、かぜ症候群、麻疹・ワクチン(4回 宮澤) 4. 血液媒介性疾患(AIDS、肝炎)(3回 宮澤) 5. 性感染症(淋病、梅毒、クラミジア)(2回 坂内) 6. 人獣共通感染症、その他(2回 坂内) 7. バイオセーフティーについて(1回 坂内) 8. まとめ(1回 坂内)
		評価方法	単位認定者(坂内): 授講の準備状況・態度(50%)、討論(30%)、レポート(20%)
		講義概要	特に感染症を取り上げ、その宿主免疫応答および免疫検査法について講義する。また、関連論文を選び、研究デザイン、データ解析、およびデータ意義について討論、考察する。
		学習目標	・病原体の生体侵入に対する宿主の自然免疫および適応免疫応答について理解する。 ・免疫応答を利用した感染症診断法について理解する。
免疫学特論	田口 晴彦 (免疫学)	授業計画	1. 自然免疫(1):上皮細胞の免疫学的役割 2. 自然免疫(2):食細胞機能 3. 自然免疫(3):補体機能 4. 適応免疫(1):Tリンパ球機能-1 5. 適応免疫(2):Tリンパ球機能-2 6. 適応免疫(3):Bリンパ球機能-1 7. 適応免疫(4):Bリンパ球機能-2 8. 免疫検査法(1):検査原理-1 9. 免疫検査法(2):検査原理-2 10. 免疫検査法(1):液性免疫検査-1 11. 免疫検査法(2):液性免疫検査-2 12. 免疫検査法(3):細胞性免疫検査-1 13. 免疫検査法(3):細胞性免疫検査-2 14. 感染免疫研究における研究デザイン法 15. 感染免疫研究におけるデータ解析とその意義
		評価方法	レポート(50%)、口頭試問(40%)、取り組み態度(10%)
		講義概要	特に感染症を取り上げ、その宿主免疫応答および免疫検査法について講義する。また、関連論文を選び、研究デザイン、データ解析、およびデータ意義について討論、考察する。
		学習目標	・病原体の生体侵入に対する宿主の自然免疫および適応免疫応答について理解する。 ・免疫応答を利用した感染症診断法について理解する。
		授業計画	1. 自然免疫(1):上皮細胞の免疫学的役割 2. 自然免疫(2):食細胞機能 3. 自然免疫(3):補体機能 4. 適応免疫(1):Tリンパ球機能-1 5. 適応免疫(2):Tリンパ球機能-2 6. 適応免疫(3):Bリンパ球機能-1 7. 適応免疫(4):Bリンパ球機能-2 8. 免疫検査法(1):検査原理-1 9. 免疫検査法(2):検査原理-2 10. 免疫検査法(1):液性免疫検査-1 11. 免疫検査法(2):液性免疫検査-2 12. 免疫検査法(3):細胞性免疫検査-1 13. 免疫検査法(3):細胞性免疫検査-2 14. 感染免疫研究における研究デザイン法 15. 感染免疫研究におけるデータ解析とその意義
評価方法	レポート(50%)、口頭試問(40%)、取り組み態度(10%)		

解剖学特論	大迫 俊二 (解剖学・細胞生物学)	講義概要	現代における解剖学は、生化学、免疫学さらに分子生物学における技術や概念を取り入れてさらに発展を続ける、極めて活気に満ちた学問領域である。その領域の中で、感覚器系に焦点を絞り、1) 視覚器、2) 味覚器、3) 嗅覚器、4) 聴覚・平衡覚器、5) その他の感覚装置、について、ヘルスサイエンス志向の解剖学的視点に立って講義する。														
		学習目標	主要な感覚器の組織、細胞生物学的特徴を理解し、その分子解剖学的意義について例を挙げて説明できるようになる。														
		授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 感覚装置の機能解剖学的見地からの概論</td> <td>2. 視覚器の組織細胞構築(2回)</td> </tr> <tr> <td>3. 聴覚器の組織細胞構築</td> <td>4. 平衡感覚器の組織細胞構築</td> </tr> <tr> <td>5. 味覚器の組織細胞構築(2回)</td> <td>6. 嗅覚器の組織細胞構築(2回)</td> </tr> <tr> <td>7. フェロモン受容器の組織細胞構築</td> <td>8. 視覚受容に関する分子解剖学</td> </tr> <tr> <td>9. 聴覚・平衡感覚受容に関する分子解剖学</td> <td>10. 嗅覚受容に関する分子解剖学</td> </tr> <tr> <td>11. フェロモン受容に関する分子解剖学</td> <td></td> </tr> <tr> <td>12. 上記以外の感覚装置について、まとめ</td> <td></td> </tr> </table>	1. 感覚装置の機能解剖学的見地からの概論	2. 視覚器の組織細胞構築(2回)	3. 聴覚器の組織細胞構築	4. 平衡感覚器の組織細胞構築	5. 味覚器の組織細胞構築(2回)	6. 嗅覚器の組織細胞構築(2回)	7. フェロモン受容器の組織細胞構築	8. 視覚受容に関する分子解剖学	9. 聴覚・平衡感覚受容に関する分子解剖学	10. 嗅覚受容に関する分子解剖学	11. フェロモン受容に関する分子解剖学		12. 上記以外の感覚装置について、まとめ	
		1. 感覚装置の機能解剖学的見地からの概論	2. 視覚器の組織細胞構築(2回)														
		3. 聴覚器の組織細胞構築	4. 平衡感覚器の組織細胞構築														
5. 味覚器の組織細胞構築(2回)	6. 嗅覚器の組織細胞構築(2回)																
7. フェロモン受容器の組織細胞構築	8. 視覚受容に関する分子解剖学																
9. 聴覚・平衡感覚受容に関する分子解剖学	10. 嗅覚受容に関する分子解剖学																
11. フェロモン受容に関する分子解剖学																	
12. 上記以外の感覚装置について、まとめ																	
評価方法	受講態度(20%)、レポート(60%)、口頭試問(20%)																
遺伝子検査学特論	島 幸夫 (臨床検査教育学)	講義概要	遺伝子検査では、内在性遺伝子(両親から引き継いだDNAとmRNA)と、外来性遺伝子(病原微生物の感染)があり、それらをどう判定するかを理解する。														
		学習目標	配列判定と発現量測定による疾患基準														
		授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1) 単因子遺伝子疾患</td> <td>2) 多因子遺伝子疾患</td> </tr> <tr> <td>3) 外因性遺伝子疾患</td> <td></td> </tr> </table> の原因と測定。上記3点について各5回行う予定。	1) 単因子遺伝子疾患	2) 多因子遺伝子疾患	3) 外因性遺伝子疾患											
		1) 単因子遺伝子疾患	2) 多因子遺伝子疾患														
		3) 外因性遺伝子疾患															
評価方法	受講態度(20%)、レポート(40%)、口頭発表(40%)																
遺伝子毒性評価特論	岸 邦和	講義概要	突然変異や染色体異常はガン細胞や先天異常疾患の原因となるため、培養細胞を用いる変異原性試験によって遺伝子毒性を推定している。本講義では先ず、遺伝子毒性が最もよく知られている物質の一つである放射線について人体影響の概要を概観する。次に、遺伝子毒性の発現される過程を、代謝、細胞周期、DNA損傷、DNA修復、発生、等の諸局面から把握して、遺伝子毒性を把握するための基礎知識を修得する。														
		学習目標	一般目標： 遺伝子毒性を評価する知識を修得するために、突然変異の成因を理解し、さまざまな安全性試験の原理とそれらの結果をヒトに外挿する際の問題点を把握する。 行動目標： 1. 遺伝子突然変異と染色体異常の誘発機構を説明できる。 2. ガンや先天異常の発生と突然変異の関係を説明できる。 3. 放射線の人体影響とそのメカニズムを説明できる。 4. 予防原則とその限界について説明できる。														
		授業計画	1. 序論(1回) 2. 放射線の人体影響(1回) 3. 遺伝子突然変異と染色体異常(1回) 4 - 6. 遺伝子毒性に影響を与える因子(3回) 7. 放射線の人体影響のまとめ(1回) 8 - 12. 化学物質の遺伝子毒性と安全性試験(5回) 13 - 14. 予防原則と安全性評価の問題点(2回) 15. まとめ(1回)														
		評価方法	受講態度(30%)、レポート(30%)、口頭試問(40%)														

分子生命科学 特論	蒲生 忍 (分子生物学) 相磯 聡子 (分子生物学)	講義概要	ワトソンとクリックによるDNA二重螺旋モデルの解明に始まる分子生物学の時代は、人の様々な形質や疾病の原因を分子レベルで明らかにした。また、ゲノム解析を端緒とする技術的革新は、次々に新しい技術や道具を生み出しながら、従来は解明が困難であった発生や分化などの複雑な現象の機構にも解析の手を加え、あらゆる生命現象を分子レベルで記載する分子生命科学の時代を到来させた。分子レベルからの生命現象の理解は今後の医学・医療において必須の要件と言える。本講義においては分子生命科学の基盤である分子レベルでの生物の記載と、特に様々な疾患の原因を分子レベルから究明する分子疾病論を取り上げる。
		学習目標	分子レベルから生命現象を理解し追求する基盤を形成する。 疾病の原因究明と治療における分子レベルでのアプローチを理解し応用する基盤を形成する。
		授業計画	1. 分子生命科学の基礎(6回) イントロダクション・遺伝子の本体・遺伝子とゲノム・細胞の分子基盤・運動と形態の分子基盤・発生と分化の分子基盤 2. 分子疾病論(8回) 遺伝子と疾患・先天性疾患・遺伝子と発生・多型・遺伝子と環境・遺伝子とがん・遺伝子と生活習慣病・遺伝子検査の問題点と将来 3. まとめ(総合討論)
		評価方法	講態度(50%)、レポート(50%) 特に受講時の積極性、リーダーシップ、レポートにおいては創造性を高く評価する。
		講義概要	生体に対する障害機構の一つにフリーラジカルや活性酸素種の関与があげられる。これらが、がん、心臓病、糖尿病などの生活習慣病を引き起こす。また一方、古来より、医食同源という言葉が使われるが、健康維持、疾病予防のために抗酸化食品といわれるものも注目されている。この科目では、それらの病因と発生メカニズム、マーカーの検出および疾病の予防、抗酸化食品の効用など、基本的な概念を中心とし進める。
機能性分子 化学特論	丘島 晴雄 (分析化学) 岡田 洋二 (分析化学) 村椿 春博 (生体検査学)	学習目標	各種活性酸素の特性を習得し、これらの活性酸素種がどのように疾病等に関与するか、更に活性酸素種によって生じる酸化障害を抗酸化食品がどのように抑制しているかを理解する。
		授業計画	1. 過酸化脂質と生体物質の酸化メカニズムの基礎(3回)(岡田) 2. 酸化ストレスマーカー(I)(3回)(村椿) 3. 酸化ストレスマーカー(II)(3回)(村椿) 4. 抗酸化剤と活性酸素種の反応速度と反応機構(3回)(丘島) 5. 機能性食品と作用機序(1回)(岡田) 6. 食品中の抗酸化性物質の体内動態(2回)(岡田)
		評価方法	単位認定者(岡田):受講態度(10%)、レポート(70%)、口頭試問(20%)
		講義概要	薬物の動態(吸収、分布、代謝、排泄)には個人差があり、これが治療効果の個人差につながる。薬物の作用とその動態について学び、薬物治療における個別化を合理的に行うため、治療の個人差につながる原因を探る。
		学習目標	薬物の作用機序を理解できている。薬物動態に関する特徴を理解できる。主な薬物相互作用や薬物を用いるときの注意点が理解できる。重要な副作用を理解できる。
薬理学特論	石井 和夫 (臨床薬理学)	授業計画	1. 薬物治療の目指すもの 3. 薬はどのように体をめぐっていくのか(2回) 5. 年齢からみた薬効 7. 薬物アレルギー 9. 薬物相互作用(2回) 2. 薬はどのように作用するのか(2回) 4. 薬効に影響する因子(総論) 6. 薬理遺伝的形質(2回) 8. 反復投与における薬効への影響 10. 薬物中毒はなぜおこるのか(2回)
		評価方法	受講態度(50%)、レポート(40%)、口頭試問(10%)

物理情報科学 特論	川澄 岩雄 (物理学・医用工学)	講義概要	物理学系科目を基礎とし、それらがどのように発展・応用されて医療の分野に取り入れられているかを理解する。また、それらを支援するために必要な情報の技術、情報を管理・処理する方法、ならびに保健・医療・福祉に関する情報システム等について学ぶ。
		学習目標	医療分野、技術の基礎となる物理学、情報技術、システム等について学ぶ。
		授業計画	1. 授業のガイダンス(1回) 2. 生体と物理学:弾性体と流体(1回)、温度と熱(1回)、振動と波動(1回)、電気と磁気(1回)、放射線(1回) 3. 生体物理情報の検出と医療機器:生体物理情報の検出(2回)、医療機器(2回) 4. 情報技術と情報システム:情報技術(3回)、いろいろな情報システム(3回) 5. まとめ(1回):学生による発表とディスカッション
		評価方法	受講態度(20%)、レポート(60%)、口頭試問(20%)
		講義概要	臨床検査としての染色体検査の重要性は、染色体異常症候群の診断や白血病などのがん細胞の診断において従来から変わっていません。ヒト核型分析において正確な検査結果を得るためには、適切な検査方法の選択能や高度な分析技術などに加え、関連する幅広い知識や技術が必要です。また依頼者である医師に対して、診療に必要な遺伝情報を的確に提供できることが求められます。染色体検査の社会的責務を理解するための講義としたいと考えています。
臨床細胞遺伝学 特論	関澤 浩一 (健康教育学)	学習目標	国際命名規約に従ったヒト核型記載ができ、染色体検査結果として関連する遺伝情報を医師に的確に伝える事ができる。
		授業計画	1. ヒト染色体の遺伝学的基礎 2. 実験設備・機器・試薬 3. 各種ヒト染色体分染法 4. ヒト核型の国際命名規約 ISCN(2009) 5. 染色体異常症候群 6. 染色体不安定性症候群 7. 染色体異常に起因する生殖障害と諸問題 8. 培養細胞株の樹立と凍結保存 9. がんと染色体異常 10. 慢性骨髄性白血病と染色体分析 11. 急性骨髄性白血病と染色体分析 12. 出生前診断と染色体分析および諸問題 13. 着床前診断と染色体分析および諸問題 14. 環境変異原と染色体異常 15. 安全性試験としての染色体異常試験
		評価方法	受講態度(50%)、レポート(40%)、口頭試問(10%)
		講義概要	臨床検査としての染色体検査の重要性は、染色体異常症候群の診断や白血病などのがん細胞の診断において従来から変わっていません。ヒト核型分析において正確な検査結果を得るためには、適切な検査方法の選択能や高度な分析技術などに加え、関連する幅広い知識や技術が必要です。また依頼者である医師に対して、診療に必要な遺伝情報を的確に提供できることが求められます。染色体検査の社会的責務を理解するための講義としたいと考えています。
		学習目標	国際命名規約に従ったヒト核型記載ができ、染色体検査結果として関連する遺伝情報を医師に的確に伝える事ができる。

II. 分野高度専門職業人科目

病理細胞診断 技術	藤井 雅彦 (病理学)	講義概要	腫瘍の組織型の診断、良悪の判定、転移がんにおける原発巣の推定などに広く用いられている免疫組織学的手法について、マーカーの選択と染色結果の正しい判定を中心に解説する。
		学習目標	1. 免疫組織学的手法について、理論と手技を十分に理解する。 2. 特定の腫瘍におけるマーカーの選択とその染色結果の判定のポイントを習得する。
		授業計画	1. 免疫組織学的手法の理論と手技についての解説(1) 2. 免疫組織学的手法の理論と手技についての解説(2) 3. 免疫組織学的手法の理論と手技についての解説(3) 4. がん関連抗原についての解説(1) 5. がん関連抗原についての解説(2) 6. がん遺伝子と遺伝子産物についての解説(1) 7. がん遺伝子と遺伝子産物についての解説(2) 8. ホルモン関連物質についての解説(1) 9. ホルモン関連物質についての解説(2) 10. 病原体関連抗原についての解説(1) 11. 病原体関連抗原についての解説(2) 12. 細胞増殖因子等の解説 13. 細胞診における免疫染色についての解説(1) 14. 細胞診における免疫染色についての解説(2) 15. 細胞診における免疫染色についての解説(3)
		評価方法	受講態度(70%)、レポート(30%)
		講義概要	腫瘍の組織型の診断、良悪の判定、転移がんにおける原発巣の推定などに広く用いられている免疫組織学的手法について、マーカーの選択と染色結果の正しい判定を中心に解説する。

細胞診断学演習	安井 英明 (細胞診断学)	講義概要	多段階発癌過程における、境界病変、前癌病変とされる病変について、その細胞学的特徴を実際の症例を用い、非腫瘍性細胞、及び悪性腫瘍細胞との形態学的比較を元に検討する。さらに免疫組織化学的検索、分子病理学的手法を用い、癌化に関与すると考えられる各種蛋白の発現検討を行う。
		学習目標	多段階発癌過程における早期イベントである境界・前癌病変について、その組織・細胞学的特徴を実際の症例において理解し、形態学的特徴を表現できる。さらに免疫組織化学的検索、分子病理学的手法を用い、癌化に関与すると考えられる各種蛋白の発現検討を行い、各段階における差異を理解するとともに、これらの手技について習熟することを目標とする。
		授業計画	1. 境界・前癌病変の組織学総説(2回) 2. 境界・前癌病変の細胞学総説(2回) 3. 境界・前癌病変の細胞像観察各論(消化器顕微鏡実習2回) 4. 境界・前癌病変の細胞像観察各論(呼吸器顕微鏡実習2回) 5. 境界・前癌病変の免疫組織細胞化学実習総論(4回) 6. 境界・前癌病変の分子病理学実習(3回)
		評価方法	レポート(50%)、口頭試問(50%)
		講義概要	血液細胞培養の基礎的な手技の修得、および造血器腫瘍細胞の培養細胞株継代方法の手技を習得する。また、培養細胞株を用いた実験の分析技術を身につける。
		学習目標	1. 血液細胞の培養が出来るようになること。 2. 培養細胞株の継代が出来るよう培養技術を習得すること。
血液細胞培養・分析技術	東 克巳 (臨床血液学)	授業計画	1. 培養のための基礎知識(2回):設備・器具と培地 2. 無菌操作と実験の安全性とバイオハザード(2回) 3. 細胞分散法、細胞の計算法 4. 培養細胞の形態観察と写真撮影(2回) 5. 凍結保存法と解凍法(2回) 6. 末梢血リンパ球培養法(2回) 7. マウス骨髄細胞培養法 8. ヒト骨髄細胞培養法 9. 白血病細胞株培養法(2回)
		評価方法	受講態度(40%)、レポート(40%)、口頭試問(20%)
		講義概要	医療機関における感染制御(infection control)と薬剤耐性菌サーベイランス(drug-resistant organism surveillance)の意義と現状について解説し、感染(感染症)対策とサーベイランスの基本的な実践方法を紹介・例示する。
		学習目標	1. 病院感染(院内感染)の定義を理解する。2. 感染対策の重要性を理解する。3. 消毒の理論を理解する。抗菌薬の分類と作用機序を理解する。4. 標準予防策と感染経路別予防策の概念と実践方法を理解する。5. 抗菌薬の分類と作用メカニズムを理解する。6. 抗菌薬耐性のメカニズムを理解する。7. 医療感染関連サーベイランスの方法を理解する。
		授業計画	1. 病院感染(院内感染)の定義と歴史的背景 2. 感染制御と感染管理の概念 3. 滅菌と消毒の理論 4. 抗菌薬の分類と作用メカニズム 5. 耐性菌と耐性メカニズム (MRSA, VRSA, VRE) 6. 耐性菌と耐性メカニズム (PRSP, BLNAR) 7. 耐性菌と耐性メカニズム (MDRP, MDR-TB) 8. β-ラクタマーゼとRプラスミド 9. 医療感染サーベイランスの必要性・基本・解析・フィードバック 10. 医療感染サーベイランスの実際(CR-BSI, VAP, SSI, CR-UTI, 職業感染) 11. 病院感染対策の基本 (標準予防策、感染経路別予防策、バリアプリコーション、職業感染対策) 12. 病院感染対策における微生物検査の実際 13. 臨床材料分離菌についての考え方(血液、髄液、喀痰、糞便、尿) 14. 薬剤感受性試験の評価法 15. CDCの多剤耐性菌ガイドライン
		評価方法	受講態度(40%)、レポート(40%)、口頭試問(20%)
感染制御学演習	森田 耕司 (臨床微生物学)	講義概要	医療機関における感染制御(infection control)と薬剤耐性菌サーベイランス(drug-resistant organism surveillance)の意義と現状について解説し、感染(感染症)対策とサーベイランスの基本的な実践方法を紹介・例示する。
		学習目標	1. 病院感染(院内感染)の定義を理解する。2. 感染対策の重要性を理解する。3. 消毒の理論を理解する。抗菌薬の分類と作用機序を理解する。4. 標準予防策と感染経路別予防策の概念と実践方法を理解する。5. 抗菌薬の分類と作用メカニズムを理解する。6. 抗菌薬耐性のメカニズムを理解する。7. 医療感染関連サーベイランスの方法を理解する。
		授業計画	1. 病院感染(院内感染)の定義と歴史的背景 2. 感染制御と感染管理の概念 3. 滅菌と消毒の理論 4. 抗菌薬の分類と作用メカニズム 5. 耐性菌と耐性メカニズム (MRSA, VRSA, VRE) 6. 耐性菌と耐性メカニズム (PRSP, BLNAR) 7. 耐性菌と耐性メカニズム (MDRP, MDR-TB) 8. β-ラクタマーゼとRプラスミド 9. 医療感染サーベイランスの必要性・基本・解析・フィードバック 10. 医療感染サーベイランスの実際(CR-BSI, VAP, SSI, CR-UTI, 職業感染) 11. 病院感染対策の基本 (標準予防策、感染経路別予防策、バリアプリコーション、職業感染対策) 12. 病院感染対策における微生物検査の実際 13. 臨床材料分離菌についての考え方(血液、髄液、喀痰、糞便、尿) 14. 薬剤感受性試験の評価法 15. CDCの多剤耐性菌ガイドライン
		評価方法	受講態度(40%)、レポート(40%)、口頭試問(20%)
		講義概要	医療機関における感染制御(infection control)と薬剤耐性菌サーベイランス(drug-resistant organism surveillance)の意義と現状について解説し、感染(感染症)対策とサーベイランスの基本的な実践方法を紹介・例示する。
		学習目標	1. 病院感染(院内感染)の定義を理解する。2. 感染対策の重要性を理解する。3. 消毒の理論を理解する。抗菌薬の分類と作用機序を理解する。4. 標準予防策と感染経路別予防策の概念と実践方法を理解する。5. 抗菌薬の分類と作用メカニズムを理解する。6. 抗菌薬耐性のメカニズムを理解する。7. 医療感染関連サーベイランスの方法を理解する。

細胞内寄生体学	坂内 久一 (臨床検査学) 宮澤 博 (臨床検査教育学)	講義概要	Brock微生物学: Michael T. Madigan et al著などを参考に細胞内寄生体の生物学的特徴や細胞内での増殖形態、疾病との関連を学ぶ。
		学習目標	1) 生細胞への感染動態から、細胞内寄生微生物と細菌との違いを理解し安全手法で取り扱えること 2) 疾患の伝播と拡大防止について理解し、対策の1例を述べるができること。 3) 治療上の問題点を理解すること。
		授業計画	1) ウイルス、クラミジア等、増殖に生細胞を必要とする病原体の疫学 (坂内、宮澤: 各1回) 2) 分離・培養法、精製法 (坂内: 3回、宮澤: 2回) 3) 診断法 (病原体診断、遺伝子診断、血清診断) (坂内: 2回、宮澤: 3回) 4) 効果的な治療薬、ワクチン (坂内: 1回、宮澤: 2回)
		評価方法	単位認定者(坂内): 授講の準備状況・態度 (50%)、討論 (30%)、レポート (20%)
免疫解析技術	田口 晴彦 (免疫学)	講義概要	免疫担当細胞の種類と取り扱い、免疫担当細胞とサイトカインアッセイ、細胞傷害試験等、免疫実験法を講義する。また、関連論文を選び、実験デザインとデータ解析について討論する。
		学習目標	・免疫担当細胞の種類とその機能について理解する。 ・免疫担当細胞の取り扱い法について理解する。 ・免疫担当細胞を用いた検査法について理解する。 ・免疫実験法について理解する。
		授業計画	1. 細胞を用いた実験 2. 免疫担当細胞の種類と機能(1) 3. 免疫担当細胞と種類と機能(2) 4. 免疫担当細胞の取り扱い 5. サイトカインと増殖因子(1) 6. サイトカインと増殖因子(2) 7. サイトカインと増殖因子(3) 8. イムノアッセイの原理(1) 9. イムノアッセイの原理(2) 10. 細胞傷害試験 11. サイトカインアッセイ(1) 12. サイトカインアッセイ(2) 13. 免疫実験のデザイン法 14. 免疫実験のデータ解析(1) 15. 免疫実験のデータ解析(2)
		評価方法	レポート(50%)、口頭試問(40%)、取り組み態度(10%)
光学・電子顕微鏡技術	大迫 俊二 (解剖学・細胞生物学)	講義概要	医学およびヘルスサイエンスの発展において、顕微鏡技術の発展は必須のものであった。様々な種類がある光学顕微鏡の装置の開発史にも触れながら、研究目的によってどのような光学顕微鏡技術が必要であるか例を挙げながら説明する。電子顕微鏡については透過型および走査型の特徴を概説し、それらに関連する技術がどのように使われているのかについて述べる。さらに、光学・電子顕微鏡をどのように効果的に組み合わせ、研究が行われているのかについて解説する。
		学習目標	様々な光学顕微鏡、および電子顕微鏡の原理を理解し、それらがいかに医学、ヘルスサイエンス領域で有効に使われているか理解する。
		授業計画	1. 顕微鏡の歴史 2. 明視野顕微鏡の原理とその活用 3. 位相差および微分干渉顕微鏡の原理とその活用 4. 蛍光顕微鏡の原理とその活用 5. 共焦点レーザー走査顕微鏡の原理とその活用 6. 光学顕微鏡で解析する組織染色法 7. 光学顕微鏡観察の為の組織の固定および標本作製法 8. 透過電子顕微鏡の原理とその活用 9. 透過電子顕微鏡観察の為の組織の固定および標本作製法 10. 走査電子顕微鏡の原理とその活用 11. 走査電子顕微鏡観察のための組織の固定および標本作製法 12. 光学顕微鏡法によるデータ取得と処理 13. 電子顕微鏡法によるデータ取得と処理 14. 光学・電子顕微鏡法を用いた研究の実例 15. まとめ
		評価方法	受講態度 (20%)、レポート (60%)、口頭試問 (20%)

人類遺伝学 研究法	田村 高志 (臨床検査学) 関澤 浩一 (健康教育学)	講義概要	ヒトの遺伝子発現、遺伝様式の解析、遺伝子変異の誘発機構などに関する総説や論文を読む。また、ヒトの遺伝に関する調査、家系分析、染色体異常の生成機構、遺伝子・染色体の細胞生物学などの分野からテーマを設定し、研究の現況をまとめて将来への課題を考察する。
		学習目標	1. 研究領域の現状を包括的に理解する。 2. 研究領域について新しい知識を得る。 3. 論文によって、研究計画の建て方や論文としてのまとめ方などを理解する。 4. 院生のテーマに沿って、研究の主軸となる領域における基本的な知識や技術を修得する。
		授業計画	受講者は月1回程度論文を紹介する。 1. 人類遺伝学分野での代表的な雑誌(American J. of Human Genetics, Trends in Genetics, Mutation Research等)の目次とサマリーを読んで、研究領域の流れを把握する。(5回実施) 2. 研究領域と周辺領域の位置付け(3回) 3. 染色体研究法あるいは研究技術の実践(5回) 4. 研究結果の考察及び討論(2回)
		評価方法	受講態度(40%)、レポート(20%)、口頭試問(40%)
		講義概要	ヒトのゲノム解析にはじめるゲノム生物学について、その基礎となる技術、さらに発展について染色体、一般的遺伝子解析、応用技術について特に技術論と方法論を中心に解説する。また各技術分野について、今後の発展と新分野への展開について解説する。
		学習目標	遺伝子解析に関する基礎的技術、さらに多様な先端技術についての原理的理解をその発展の基盤を理解するとともに、現在の様々なアプリケーションの実例について検討し、各自の研究テーマに沿い今後の応用について考究する。
遺伝子解析・ 検査論	蒲生 忍 (分子生物学) 相磯 聡子 (分子生物学)	授業計画	1. 遺伝子解析技術論(蒲生・8回) 染色体分染法・in situ hybridization法・ゲノム解析技術・遺伝子導入生物技術・幹細胞解析・遺伝子治療技術・討論 2. 分子生物学技術論(相磯・7回) 遺伝子クローニング技術・遺伝子構造解析技術・遺伝子機能解析技術・討論
		評価方法	単位認定者(蒲生先生):受講態度(50%)、レポート(50%) 特に受講時の積極性、リーダーシップ、レポートにおいては創造性を高く評価する。
		講義概要	生体に対する障害機構の一つにフリーラジカルや活性酸素種の関与があげられる。これらが、がん、心臓病、糖尿病などの生活習慣病を引き起こす。また一方、古来より、医食同源という言葉が使われるが、健康維持、疾病予防のために抗酸化食品といわれるものも注目されている。この科目では、それらの病因と発生メカニズム、マーカーの検出および疾病の予防、抗酸化食品の効用など、最近の文献を主体としセミナー形式で進める。
		学習目標	活性酸素種による病因の発生メカニズムから、病因のマーカーの検出、そして予防、さらに機能性食品として健康維持、疾病予防に期待される食品の機序などを、一貫して化学的、そして機能的に捉えることを目的とする。1過酸化脂質により生体がダメージを受ける機構 2その要因とバイオマーカー 3そのダメージを防ぐ抗酸化機構 4抗酸化食品の作用メカニズムと効用および、その体内動態など、基本的な単行本を参考書としながら、最近のホットな文献などを題材として、セミナー形式で発表と質疑、討論形式で進めて行き、参加者自身の課題の立案と解決能力を養う。
		授業計画	1. 過酸化脂質と生体物質の酸化メカニズムの基礎(3回)(岡田) 2. 酸化ストレスマーカー(I)(3回)(村椿) 3. 酸化ストレスマーカー(II)(3回)(村椿) 4. 抗酸化剤と活性酸素種の反応速度と反応機構(3回)(丘島) 5. 機能性食品と作用機序(1回)(岡田) 6. 食品中の抗酸化性物質の体内動態(2回)(岡田)
		評価方法	単位認定者(岡田):受講態度(10%)、レポート(70%)、口頭試問(20%)
機能分子化学 演習	丘島 晴雄 (分析化学) 岡田 洋二 (分析化学) 村椿 春博 (生体検査学)	講義概要	生体に対する障害機構の一つにフリーラジカルや活性酸素種の関与があげられる。これらが、がん、心臓病、糖尿病などの生活習慣病を引き起こす。また一方、古来より、医食同源という言葉が使われるが、健康維持、疾病予防のために抗酸化食品といわれるものも注目されている。この科目では、それらの病因と発生メカニズム、マーカーの検出および疾病の予防、抗酸化食品の効用など、最近の文献を主体としセミナー形式で進める。
		学習目標	活性酸素種による病因の発生メカニズムから、病因のマーカーの検出、そして予防、さらに機能性食品として健康維持、疾病予防に期待される食品の機序などを、一貫して化学的、そして機能的に捉えることを目的とする。1過酸化脂質により生体がダメージを受ける機構 2その要因とバイオマーカー 3そのダメージを防ぐ抗酸化機構 4抗酸化食品の作用メカニズムと効用および、その体内動態など、基本的な単行本を参考書としながら、最近のホットな文献などを題材として、セミナー形式で発表と質疑、討論形式で進めて行き、参加者自身の課題の立案と解決能力を養う。
		授業計画	1. 過酸化脂質と生体物質の酸化メカニズムの基礎(3回)(岡田) 2. 酸化ストレスマーカー(I)(3回)(村椿) 3. 酸化ストレスマーカー(II)(3回)(村椿) 4. 抗酸化剤と活性酸素種の反応速度と反応機構(3回)(丘島) 5. 機能性食品と作用機序(1回)(岡田) 6. 食品中の抗酸化性物質の体内動態(2回)(岡田)
		評価方法	単位認定者(岡田):受講態度(10%)、レポート(70%)、口頭試問(20%)
		講義概要	生体に対する障害機構の一つにフリーラジカルや活性酸素種の関与があげられる。これらが、がん、心臓病、糖尿病などの生活習慣病を引き起こす。また一方、古来より、医食同源という言葉が使われるが、健康維持、疾病予防のために抗酸化食品といわれるものも注目されている。この科目では、それらの病因と発生メカニズム、マーカーの検出および疾病の予防、抗酸化食品の効用など、最近の文献を主体としセミナー形式で進める。
		学習目標	活性酸素種による病因の発生メカニズムから、病因のマーカーの検出、そして予防、さらに機能性食品として健康維持、疾病予防に期待される食品の機序などを、一貫して化学的、そして機能的に捉えることを目的とする。1過酸化脂質により生体がダメージを受ける機構 2その要因とバイオマーカー 3そのダメージを防ぐ抗酸化機構 4抗酸化食品の作用メカニズムと効用および、その体内動態など、基本的な単行本を参考書としながら、最近のホットな文献などを題材として、セミナー形式で発表と質疑、討論形式で進めて行き、参加者自身の課題の立案と解決能力を養う。

薬物動態分析 技術	石井 和夫 (臨床薬理学)	講 義 概 要
		薬物の動態(吸収、分布、代謝、排泄)解析には、投与薬の代謝産物を含めた血中および尿中における質的、量的把握が必要である。生体成分の前処理法を含め、それら試料の機器分析法について解説する。
		学 習 目 標
		薬物の動態(吸収、分布、代謝、排泄)解析には、主に血液、尿試料を取り扱うことになるが、まず生体マトリックスからの薬物およびその代謝産物をクリーンアップするにはどうすればよいのか。それらの性質を代謝の仕組みから理解し、機器分析に先立ち適切な前処理法を考案できる。適切な分離手段、分析手段を選択することができる。
		授 業 計 画
		1. 薬物代謝とは(2回) 2. 薬物の物理化学的性状と分析法の選択 3. ガスクロマトグラフィー(GC) (2回) 4. ガスクロマトグラフィー-質量分析装置 (GC/MS) 5. 高速液体クロマトグラフィー (HPLC) (2回) 6. 高速液体クロマト-質量分析装置(2回) 7. 生体成分の前処理法(GCサンプル) 8. 生体成分の前処理法(HPLCサンプル) (2回) 9. 薬物動態解析例(2回)
評 価 方 法		
受講態度(50%)、レポート(40%)、口頭試問(10%)		

III. 論文指導

授業科目	担 当 者	講 義 概 要
特別研究	川 澄 岩 雄 (物理学・医用工学)	研究分野に関する文献検索、研究方法などを学び、研究計画の構築、調査・実験などによるデータの収集を論文の作成・発表などを通して、研究の進め方、まとめ方などの能力を修得する。
		学 習 目 標
		研究の方法、まとめ方を学ぶ。
		授 業 計 画
		1. 研究テーマに関するプレゼンテーション、検討、目標設定 2. 文献検索、研究テーマ、目標の再検討、研究方法の整理 3. 調査・実験データの収集・検討 4. 研究結果の整理、検討、論文作成、発表 上記を30コマで行う
		評 価 方 法
研究姿勢 (50%)、論文作成・発表 (50%)		
特別研究	石 井 和 夫 (臨床薬理学)	講 義 概 要
		学会発表、論文(学術雑誌)発表までの過程を指導する。
		学 習 目 標
		研究テーマの実験計画を立案し、工程表に従って実験を行う。最終的には学会および学術雑誌に発表する資質を養成する。
		授 業 計 画
		テーマに沿った(1)文献の検索(情報収集の仕方と現状の把握)(2)実験計画の工程表を作成(方法論の確立)(3)~(23)実験(データ収集)(24)データ解析(考察)(25)まとめ-1:論文構成の草案(26)まとめ-2:図、表の作成方法(27)まとめ-3:科学英文の書き方、表現法(28)まとめ-4:英文の校正(29)論文投稿の仕方と英文レターの書き方(30)プレゼンテーションの仕方
評 価 方 法		
研究態度(50%)、提出論文(50%)		

特別研究	蒲生 忍 (分子生物学)	講義概要
		専門分野における研究の進め方を学ぶ。研究テーマに沿った文献の収集精査、仮説立案し、仮説検証のための実験計画立案、実験データ収集と検討などを学ぶ。さらに研究の成果を口頭発表し、さらに学術論文として公表する能力を修得する。
		学習目標
		研究計画を立案し、実行し、成果を公表する。
		授業計画
		1. 文献検索と文献の読み方 (3回) 2. 仮説と論理 (3回) 3. 研究計画法 (4回) 4. 研究におけるコンプライアンス (3回) 5. 研究データの解析法 (3回) 6. 考察の仕方 (4回) 7. 効果的プレゼンテーション法 (4回) 8. 学術論文の執筆法 (6回)
		評価方法
		口頭試問 (40%) 論文 (60%)
特別研究	藤井 雅彦 (病理学)	講義概要
		子宮頸部の異形成、上皮内癌、扁平上皮癌、腺癌について、その発生原因と発生機序をとくにヒトパピローマウイルスとの関連について検討する。また、各病変の細胞診、組織診の判定について再検討し、判定基準の見直しを行う。コイロサイトーシスについてもより詳細な検討を行う。
		学習目標
		1. 子宮頸部における腫瘍性病変の発生原因と発生機序を理解する。とくにヒトパピローマウイルスにおける発癌過程を理解する。 2. 子宮頸部における腫瘍性病変の細胞像および組織像をよく理解する。
		授業計画
		1. 子宮頸部の正常組織像、細胞像の解説と検鏡による確認 (2回) 2. 子宮頸部異形成の組織像、細胞像の解説と検鏡による確認 (2回) 3. 子宮頸部上皮内癌、微小浸潤扁平上皮癌の組織像、細胞像の解説と検鏡による確認 (2回) 4. 子宮頸部扁平上皮癌の組織像、細胞像の解説と検鏡による確認 (2回) 5. 子宮頸部腺癌の組織像、細胞像の解説と検鏡による確認 (2回) 6. ヒトパピローマウイルス感染における組織像、細胞像の解説と検鏡による確認 (2回) 7. 子宮頸部腫瘍性病変の発生とヒトパピローマウイルス感染との関連性の検討 (6回) 8. 子宮頸部腫瘍性病変の組織学的判定基準の見直し (6回) 9. 子宮頸部腫瘍性病変における細胞診判定基準の見直し (6回)
		評価方法
		受講態度 (70%)、レポート (30%)
特別研究	安井 英明 (細胞診断学)	講義概要
		代表的な難治性癌である転移性癌は治療抵抗性を示すため予後不良である。そこで本研究では、細胞増殖マーカーや転移関連蛋白の腫瘍組織、細胞内発現を免疫組織化学的手法を用いて検討することにより、分子標的療法の治療効果判定に寄与する検査法の確立を目指した講義を行う。
		学習目標
		分子標的療法の一般原理、及び治療現況を理解できる。代表的な分子標的療法薬の作用機序を理解できる。難治性癌である転移性癌の生物学的特性、及び形態学的特徴を理解できる。代表的な転移性癌である転移性肝癌、転移性肺癌につき、分子標的療法薬の治療効果判定方法を理解できる。
		授業計画
		1. 難治性癌の生物学的特性概論 (4回) 2. 難治性癌の形態学的特徴概論 (4回) 3. 転移性肝癌の生物学的特性 (2回) 4. 転移性肝癌の形態学的特徴 (2回) 5. 転移性肺癌の生物学的特性 (2回) 6. 転移性肺癌の形態学的特徴 (2回) 7. 分子標的療法の原理 (2回) 8. 分子標的療法の治療概況 (2回) 9. 代表的な分子標的療法薬の作用機序 (2回) 10. 乳癌におけるHER2蛋白治療概況 (2回) 11. 大腸癌におけるVEGF蛋白治療概況 (2回) 12. 転移性肝癌における分子標的療法 (2回) 13. 転移性肺癌における分子標的療法 (2回)
		評価方法
		学位論文の提出及び学位審査の合格 (100%)

特別研究	坂内 久一 (臨床検査学)	講義概要
		研究テーマに関する文献調査を行ない問題点を明確にする。問題点解決のために必要な技術を修得しそれを駆使して実験データを得る。結果が問題点解決に十分か、さらに実験を必要とするか等、試行錯誤し検証を試みる。データを集約し論文作成の過程を通して、学術論文として公表する能力を修得する。
		学習目標
		関連論文を読み理解することができること。必要な技術を取得すること。問題解決策を理解の上、実験データを用いて論理的な論文作成ができること。
		授業計画
		1. 研究テーマ、計画の検討・討論 (1回) 2. 文献検索法と関連文献の熟読 (3回) 3. 実験技術の取得(細胞培養法、精製法、泳動法、免疫学測定法、PCR等) (5回) 4. 試料を用いた測定。分析 (8回) 5. データの解析 (4回) 6. 論文作成と発表方法(9回)
特別研究	森田 耕司 (臨床微生物学)	評価方法
		研究態度 (60%)、論文 (40%)
		講義概要
		医療関連感染(院内感染、病院感染)における抗菌薬耐性菌の出現・増加は憂慮すべき問題である。抗菌薬耐性菌の伝播・拡散様式には、娘細胞への垂直伝播(主として薬剤作用点の変化に起因する耐性)とRプラスミドの接合伝達による水平伝播がり、自然界、院内環境、常在菌叢では両者が混在している。 本講義・研究では、国内・外における抗菌薬使用と耐性菌サーベイランスの現状について講義し、サーベイランスの意義を理解させる。また、1接合伝達性Rプラスミドとその耐性遺伝子獲得要因(トランスポゾン、インテグロンなど)、2薬剤作用点の変異が耐性化に結びつく遺伝子群について、それらの構造・機能解析の意義、解析法の原理・手法について講義する。その後、過去の一定期間に医療機関で分離された腸内細菌科臨床分離株を対象とし、抗菌薬耐性菌の分子疫学的解析とそれを基にした抗菌薬耐性菌サーベイランスを実施する。
		学習目標
		1. 抗菌薬の種類、作用メカニズム、特徴を理解する。 2. 抗菌薬感受性試験の原理と手法を理解する。 3. 抗菌薬耐性のメカニズムを理解する。 4. プラスミド、耐性遺伝子、関連遺伝子の構造・機能解析の意義と手法を理解する。 5. 抗菌薬耐性菌サーベイランスの意義と手法を理解する。
特別研究	森田 耕司 (臨床微生物学)	授業計画
		1. 抗菌薬の種類と作用メカニズム 2. 抗菌薬耐性のメカニズム(概論) 3. 蛋白質合成阻害薬の作用メカニズムと特徴 4. 細胞壁合成阻害薬の作用メカニズムと特徴 5. 核酸合成阻害薬の作用メカニズムと特徴 6. 細胞質膜障害、葉酸代謝阻害薬の作用メカニズムと特徴 7. β-ラクタム系抗菌薬耐性のメカニズムと疫学 8. アミノグリコシド系、マクロライド系抗菌薬耐性のメカニズムと疫学 9. ニューキノロン系、グリコペプチド系抗菌薬耐性のメカニズムと疫学 10. Rプラスミドの分子遺伝学Ⅰ: replicon typeの分類 11. Rプラスミドの分子遺伝学Ⅱ: 接合伝達のメカニズム 12. 抗菌薬感受性測定法 13. β-ラクタマーゼの検出と活性測定法 14. PCRを利用した抗菌薬耐性遺伝子、耐性関連遺伝子の増幅・検出法 15. 耐性関連遺伝子の変異分析法: PCR-RFLPとPCR-direct sequencing 16. Kado and Liuの方法によるプラスミドの検出 17. Mizobuchiの変法によるプラスミドの分離精製 18. 精製プラスミドの制限酵素分析 19. PCRを利用したRプラスミドのreplicon typing 19. 遠心重積法、broth matingによるRプラスミドの接合伝達 20. 腸内細菌科臨床分離株の抗菌薬感受性試験 (2回) 21. 腸内細菌科臨床分離株のプラスミドプロファイル分析 (2回) 22. 腸内細菌科臨床分離株が保有するRプラスミドの接合伝達 (2回) 23. 腸内細菌科臨床分離株の耐性遺伝子、耐性関連遺伝子分析 24. 腸内細菌科臨床分離株が保有するRプラスミドのreplicon type分析 25. データ分析と評価 (2回) 26. まとめと総合討論
		評価方法
		レポート (50%)、受講態度 (30%)、プレゼンテーション (20%)

特別研究	東 克 巳 (臨床血液学)	1) フローサイトメトリー (FCM) を用いた造血器悪性腫瘍細胞診断に関する研究
		学 習 目 標
		造血器悪性腫瘍の細胞表面抗原による病型分類が出来るよう具体的検索法を習得する。
		授 業 計 画
		1. 研究計画の立案作成 2. FCMとフローサイトメーターの仕組み 3. FCMによる細胞表面抗原の検索および実験 4. FCMによる細胞内抗原の検索および実験 5. 造血器腫瘍の病型分類の演習 6. 論文作成 上記を30コマで行う
		評 価 方 法 受講態度(40%)、レポート(20%)、口頭試問(40%)
特別研究	田 口 晴 彦 (免疫学)	講 義 概 要
		次の1)~3)に掲げるテーマについて研究指導、および論文指導を行う。 1) マイコプラズマ肺炎の発症メカニズムに関する研究 2) 抗微生物薬のimmunomodulation活性に関する研究 3) Probioticsの宿主免疫応答への影響に関する研究
		学 習 目 標
		・研究目的に見合った研究計画が立てられる。 ・適切な実験系が組み立てられ、実験ができる。 ・実験結果のデータ解析ができ、結果とその考察、および発展性について考えられる。 ・論文を作成することができる。
		授 業 計 画
		研究の進捗にしたがい、適宜指導を行う。 ・研究計画指導 ・実験系に関する指導 ・データ解析指導 ・論文作成指導 等を30コマで行う
特別研究	大 迫 俊 二 (解剖学・細胞生物学)	講 義 概 要
		専門分野における研究方法を学び、研究テーマに沿った文献検討を調査・実験などによりデータを収集し、論文作成の過程を通して学術論文として公表する能力を習得する。
		学 習 目 標
		研究課題を明確にし研究計画書を作成する。学術論文の書き方を修得する。
		授 業 計 画
		1. 研究課題の追求 2. 研究課題に従った先行研究の分析 3. 研究計画書の作成 それらを30コマで行う
評 価 方 法 受講態度(50%)、研究計画書(50%)		

特別研究	丘島晴雄 (分析化学)	講義概要
		実験系の研究テーマに関する文献調査方法、実験計画の立案方法を学び、実験からデータを収集し、論文作成能力を養う。
		学習目標
		学術論文作成及びプレゼンテーション能力を養う。
		授業計画
		1. 文献調査方法 (3コマ) 2. 実験計画の立て方 (3コマ) 3. 最新論文の紹介 (5コマ) 4. 実験系における実験ノートの書き方 (1コマ) 5. 論文の書き方 (研究成果の整理、論文の構成、論文の作成、論文の仕上げ) (15コマ) 6. 講演発表の方法 (口頭、ポスター) (3コマ)
		評価方法
		毎回提出するレポートから、成績評価をする (100%)。

《今年度休講科目》

- ・特別講義 I ・特別演習 I
- ・特別講義 II ・特別演習 II

保健学専攻 博士前期課程

保健・福祉科学分野

I. 分野基幹科目

授業科目	担当者	講義概要
保健管理学特論	加藤 英世 (母子保健学)	近年の地域保健医療の実態と今後の課題について、その展開方法について論述する。さらに、学生間でこれらの課題について討論を行う。
		学 習 目 標
		近年の地域保健医療の実態と今後の課題について、その展開方法について論述する。さらに、学生間でこれらの課題について討論を行う。
		授 業 計 画
		1. 保健管理学総論 3. 日本の死生観 5. 福祉政策 7. 親子の保健福祉 9. 学童・思春期の保健福祉 11. 高齢者の保健福祉 13. 障害者の保健福祉 15. 先進国・途上国の保健福祉 2. 日本の健康観 4. 日本の疾病構造 6. 健康転換 8. 乳幼児の保健福祉 10. 青年の保健福祉 12. 障害児の保健福祉 14. ターミナルケア
評 価 方 法		
		受講態度(50%)、レポート(30%)、口頭試問(20%)
環境保健学特論	金子 哲也 (環境保健学・人類生態学)	講義概要
		種々の環境条件による健康影響を、既報論文、公開データを素に議論する。身近な環境から地球環境に至るまで、学術雑誌やインターネットから収集した報告やデータもとに、環境因子と健康指標の関連性について検討を進める。個々人の興味に沿って課題を決め、情報収集から検討・発表までを各自が行うこととする。
		学 習 目 標
		環境因子への曝露が人間の健康に与える影響を、定性的に把握し、定量的に評価するための枠組みを理解し、実際の問題に取り組むための基礎を身につける。
		授 業 計 画
		1. 環境と人間の関わり、構造の理解 3. 環境要因曝露の定量的把握 5. 主題の探索 7. 主要検索文献の抄読(1) 9. 主要検索文献の抄読(3) 11. 文献抄読に基づく結論、推論 13. 上記に基づく研究仮説・作業仮説の設定 15. まとめ 2. 環境の評価と指標 4. 健康の観察、評価法 6. 主題関連文献の検索、整理 8. 主要検索文献の抄読(2) 10. 主要検索文献の抄読(4) 12. 主題に関わる紙上研究計画の策定 14. シミュレーション
		評 価 方 法
		受講態度(50%)、レポート(50%)
精神保健学特論	田島 治 (精神保健学)	講義概要
		うつ病や不安障害、自殺対策などの問題を中心にメンタルヘルスの現状と課題、今後の方向性について検討し学ぶ。
		学 習 目 標
		職場や家庭、学校現場におけるメンタルヘルスの現状と課題を理解し、ポジティブメンタルヘルスとサポータティブメンタルヘルスの両面から問題点を分析し支援できることを目標とする。
		授 業 計 画
		1. 現代社会におけるメンタルヘルスの現状を知る(3回) 2. 世界における自殺の実態とわが国の状況(2回) 3. 多様化するうつ病の病像とその対策(4回) 4. 現代社会の不安と様々な不安障害(3回) 5. 新たな心の健康のあり方を求めて(2回) 6. まとめ(1回) 計15回
		評 価 方 法
		レポート(50%)、口頭試問(50%)

学校保健学 特論	大嶺 智子 (健康教育学)	講 義 概 要	超高齢社会に向かうわが国にとって、一人ひとりの健康の保持増進に対する意識を高め、健康な生活習慣への行動化を図っていくことは大きな課題である。その実現のためには、子どもたちに対する健康教育の意義は大きく、学校保健組織活動、保健指導、保健学習、学校保健活動の活性化について考える。																
		学 習 目 標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康課題の変遷を理解し、説明できる。 ・学校保健、保健教育の枠組みを理解し、説明できる。行動化につながる保健教育スキルのキーポイントを整理する。 ・教材研究を通して学校保健活動活性化のヒントを探る。 																
		授 業 計 画	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>2. 疾病構造について</td> </tr> <tr> <td>3. 教育現場の健康課題</td> <td>4. 学校保健の枠組み</td> </tr> <tr> <td>5. 学校保健組織活動</td> <td>6. 保健教育実践者</td> </tr> <tr> <td>7. 保健室</td> <td>8. 保健教育(1)</td> </tr> <tr> <td>9. 保健教育(2)</td> <td>10. 保健教育(3)</td> </tr> <tr> <td>11. 保健指導の教材研究(1)</td> <td>12. 保健指導の教材研究(2)</td> </tr> <tr> <td>13. 保健学習の教材研究(1)</td> <td>14. 保健学習の教材研究(2)</td> </tr> <tr> <td>15. まとめ</td> <td></td> </tr> </table>	1. ガイダンス	2. 疾病構造について	3. 教育現場の健康課題	4. 学校保健の枠組み	5. 学校保健組織活動	6. 保健教育実践者	7. 保健室	8. 保健教育(1)	9. 保健教育(2)	10. 保健教育(3)	11. 保健指導の教材研究(1)	12. 保健指導の教材研究(2)	13. 保健学習の教材研究(1)	14. 保健学習の教材研究(2)	15. まとめ	
		1. ガイダンス	2. 疾病構造について																
		3. 教育現場の健康課題	4. 学校保健の枠組み																
5. 学校保健組織活動	6. 保健教育実践者																		
7. 保健室	8. 保健教育(1)																		
9. 保健教育(2)	10. 保健教育(3)																		
11. 保健指導の教材研究(1)	12. 保健指導の教材研究(2)																		
13. 保健学習の教材研究(1)	14. 保健学習の教材研究(2)																		
15. まとめ																			
評 価 方 法	受講態度・準備学習(30%)、レポート(30%)、口頭試問(40%)																		
遺伝教育特論	岸 邦 和	講 義 概 要	ヒトにおける遺伝性疾患の発生頻度や遺伝子突然変異に関わる環境要因などについての現在の知見を紹介する。70年代の知見や高校教科書の記述とのギャップを認識して、遺伝に関する誤解を解消するための方策を考える機会としたい。																
		学 習 目 標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 遺伝学の基礎的知識を修得する。 2. 遺伝学用語のあいまいさを理解する。 3. 遺伝病に対する考え方の時代背景を理解する。 4. 高校教育の国別特徴を理解する。 5. 日本における遺伝教育のあり方の問題点を考察する習慣をつける。 																
		授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 遺伝用語、遺伝様式、形質発現様式など、遺伝の基礎知識の講義(6回) 2. 遺伝用語のあいまいさのまとめ(1回) 3. 著作に見る遺伝病に対する考え方の多様性(2回) 4. 高校の遺伝教育の国際比較(2回) 5. 遺伝性疾患の発生頻度(1回) 6. 遺伝病及び遺伝子診断に関する倫理問題(1回) 7. 種の保存とリスク管理(1回) 8. まとめ(1回) 																
		評 価 方 法	受講態度(30%)、レポート(30%)、口頭試問(40%)																
		保健栄養学 特論	長谷川 めぐみ (公衆衛生学)	講 義 概 要	日本人の食をめぐる環境は変化している。食料自給率の低下、固有の食文化の衰退、食品の安全性への不安、食生活の歪みが及ぼす健康への影響など、食を取り巻く問題が山積している。食環境に関連する研究論文を読み進め、現状を把握し問題点や解決の方策を探る。														
学 習 目 標	食環境に関連する科学論文を読み進め、自身の研究や文献の抄読に役立てることを目標とする。																		
授 業 計 画	<ol style="list-style-type: none"> 1-5. 世界の中での日本の「食」を学ぶ 6-10. 文献抄読(日本における関連の研究論文) 11-15. 文献抄読(海外における関連の研究論文) 																		
評 価 方 法	受講態度(20%)、レポート(40%)、口頭試問(20%)、その他(20%)																		

保健福祉学 特論	熊井 利廣 (心理学・社会福祉学)	講義概要	少子化の進行、児童虐待の増加など、子どもや子育てをめぐる環境は大きく変化している。子ども、子育ての現状について学び考察する。																		
		学習目標	子ども、子育ての現状について理解できること。それらについて自分の考えを述べるができること。																		
		授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>2. 現代社会と子ども、子育て1</td> </tr> <tr> <td>3. 現代社会と子ども、子育て2</td> <td>4. 現代社会と子ども、子育て3</td> </tr> <tr> <td>5. 子育ての歴史から見えるもの</td> <td>6. 少子化問題1</td> </tr> <tr> <td>7. 少子化問題2</td> <td>8. 少子化問題3</td> </tr> <tr> <td>9. 児童虐待問題1</td> <td>10. 児童虐待問題2</td> </tr> <tr> <td>11. 児童虐待問題3</td> <td>12. 子どもと貧困問題1</td> </tr> <tr> <td>13. 子どもの貧困問題2</td> <td>14. 子どもの貧困問題3</td> </tr> <tr> <td>15. まとめ</td> <td></td> </tr> </table>	1. ガイダンス	2. 現代社会と子ども、子育て1	3. 現代社会と子ども、子育て2	4. 現代社会と子ども、子育て3	5. 子育ての歴史から見えるもの	6. 少子化問題1	7. 少子化問題2	8. 少子化問題3	9. 児童虐待問題1	10. 児童虐待問題2	11. 児童虐待問題3	12. 子どもと貧困問題1	13. 子どもの貧困問題2	14. 子どもの貧困問題3	15. まとめ			
		1. ガイダンス	2. 現代社会と子ども、子育て1																		
		3. 現代社会と子ども、子育て2	4. 現代社会と子ども、子育て3																		
		5. 子育ての歴史から見えるもの	6. 少子化問題1																		
7. 少子化問題2	8. 少子化問題3																				
9. 児童虐待問題1	10. 児童虐待問題2																				
11. 児童虐待問題3	12. 子どもと貧困問題1																				
13. 子どもの貧困問題2	14. 子どもの貧困問題3																				
15. まとめ																					
評価方法	レポート(30%)、口頭試問(70%)																				
講義概要	認知心理学の主要な研究テーマについて文献を読み、議論する。																				
学習目標	認知心理学の主要な研究テーマを題材として、(1)認知心理学の研究目的を理解する。(2)認知心理学の研究方法を習得する。(3)結果の解釈と考察について議論する力を身につける。																				
心理学特論	下島 裕美 (心理学・社会福祉学)	講義概要	認知心理学の主要な研究テーマを題材として、(1)認知心理学の研究目的を理解する。(2)認知心理学の研究方法を習得する。(3)結果の解釈と考察について議論する力を身につける。																		
		学習目標	認知心理学の主要な研究テーマを題材として、(1)認知心理学の研究目的を理解する。(2)認知心理学の研究方法を習得する。(3)結果の解釈と考察について議論する力を身につける。																		
		授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 認知心理学とは何か</td> <td>2. 注意と意識(1)</td> </tr> <tr> <td>3. 注意と意識(2)</td> <td>4. 短期記憶と長期記憶(1)</td> </tr> <tr> <td>5. 短期記憶と長期記憶(2)</td> <td>6. 潜在記憶(1)</td> </tr> <tr> <td>7. 潜在記憶(2)</td> <td>8. 知識と表象(1)</td> </tr> <tr> <td>9. 知識と表象(2)</td> <td>10. 問題解決(1)</td> </tr> <tr> <td>11. 問題解決(2)</td> <td>12. 推理(1)</td> </tr> <tr> <td>13. 推理(2)</td> <td>14. 感情と認知(1)</td> </tr> <tr> <td>15. 感情と認知(2)</td> <td></td> </tr> </table>	1. 認知心理学とは何か	2. 注意と意識(1)	3. 注意と意識(2)	4. 短期記憶と長期記憶(1)	5. 短期記憶と長期記憶(2)	6. 潜在記憶(1)	7. 潜在記憶(2)	8. 知識と表象(1)	9. 知識と表象(2)	10. 問題解決(1)	11. 問題解決(2)	12. 推理(1)	13. 推理(2)	14. 感情と認知(1)	15. 感情と認知(2)			
		1. 認知心理学とは何か	2. 注意と意識(1)																		
		3. 注意と意識(2)	4. 短期記憶と長期記憶(1)																		
		5. 短期記憶と長期記憶(2)	6. 潜在記憶(1)																		
7. 潜在記憶(2)	8. 知識と表象(1)																				
9. 知識と表象(2)	10. 問題解決(1)																				
11. 問題解決(2)	12. 推理(1)																				
13. 推理(2)	14. 感情と認知(1)																				
15. 感情と認知(2)																					
評価方法	受講態度(60%)、レポート(40%)。																				
講義概要	病弱児にとつての教育の意義を理解し、医療や教育に携わる専門職としてできる支援について考えていく。																				
学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・病弱児にとつての社会資源について理解し、説明できる。 ・病気が学校生活にどのように影響するか理解する。 ・専門職として必要な支援を理解する。 																				
特別講義Ⅰ (病弱教育)	太田ひろみ (看護養護教育学専攻)	講義概要	病弱児にとつての教育の意義を理解し、医療や教育に携わる専門職としてできる支援について考えていく。																		
		学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・病弱児にとつての社会資源について理解し、説明できる。 ・病気が学校生活にどのように影響するか理解する。 ・専門職として必要な支援を理解する。 																		
		授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>2. 病気がある子どもの理解</td> </tr> <tr> <td>3. 入院生活と院内教育</td> <td>4. 慢性疾患がある子どもの学校生活</td> </tr> <tr> <td>5. アレルギーがある子どもの学校生活</td> <td>6. 特別支援教育</td> </tr> <tr> <td>7. 肢体不自由の子どもの学校生活</td> <td>8. 病弱教育に対する保護者の期待</td> </tr> <tr> <td>9. 病弱児の兄弟姉妹をめぐる問題</td> <td>10. がんの子どもの学校生活</td> </tr> <tr> <td>11. ターミナル期の子どもの学校生活</td> <td>12. 病弱児のための様々な社会資源</td> </tr> <tr> <td>13. 病弱児と行政の支援</td> <td>14. 病弱児をめぐる地域と学校との連携</td> </tr> <tr> <td>15. まとめ</td> <td></td> </tr> </table>	1. ガイダンス	2. 病気がある子どもの理解	3. 入院生活と院内教育	4. 慢性疾患がある子どもの学校生活	5. アレルギーがある子どもの学校生活	6. 特別支援教育	7. 肢体不自由の子どもの学校生活	8. 病弱教育に対する保護者の期待	9. 病弱児の兄弟姉妹をめぐる問題	10. がんの子どもの学校生活	11. ターミナル期の子どもの学校生活	12. 病弱児のための様々な社会資源	13. 病弱児と行政の支援	14. 病弱児をめぐる地域と学校との連携	15. まとめ			
		1. ガイダンス	2. 病気がある子どもの理解																		
		3. 入院生活と院内教育	4. 慢性疾患がある子どもの学校生活																		
		5. アレルギーがある子どもの学校生活	6. 特別支援教育																		
7. 肢体不自由の子どもの学校生活	8. 病弱教育に対する保護者の期待																				
9. 病弱児の兄弟姉妹をめぐる問題	10. がんの子どもの学校生活																				
11. ターミナル期の子どもの学校生活	12. 病弱児のための様々な社会資源																				
13. 病弱児と行政の支援	14. 病弱児をめぐる地域と学校との連携																				
15. まとめ																					
評価方法	レポート(70%)、受講態度(30%)																				
講義概要	子どもの現代的な健康課題に対する養護教諭の役割・機能について、文献検討およびディスカッションを通じて検討する																				
学習目標	子どもの現代的な健康課題に対する養護教諭の役割・機能について自身の考えが述べられる																				
特別講義Ⅱ (養護教諭論)	亀崎 路子 (看護養護教育学専攻)	講義概要	子どもの現代的な健康課題に対する養護教諭の役割・機能について、文献検討およびディスカッションを通じて検討する																		
		学習目標	子どもの現代的な健康課題に対する養護教諭の役割・機能について自身の考えが述べられる																		
		授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. ガイダンス</td> <td>2. 養護教諭の歴史と職務の変遷</td> </tr> <tr> <td>3. 子どもの現代的な健康および発育発達の課題と養護教諭の新たな役割・機能</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4. 生活習慣に関わる健康問題</td> <td>5. いじめ問題</td> </tr> <tr> <td>6. 不登校</td> <td>7. 児童虐待</td> </tr> <tr> <td>8. 性に関する健康問題</td> <td>9. 特別支援ニーズのある子ども問題</td> </tr> <tr> <td>10. 飲酒・喫煙・薬物乱用防止</td> <td>11. 慢性疾患を抱えた子ども(2回)</td> </tr> <tr> <td>13. 災害および危機管理</td> <td></td> </tr> <tr> <td>14. 自己課題に対するプレゼンテーションおよびディスカッション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>15. まとめ</td> <td></td> </tr> </table>	1. ガイダンス	2. 養護教諭の歴史と職務の変遷	3. 子どもの現代的な健康および発育発達の課題と養護教諭の新たな役割・機能		4. 生活習慣に関わる健康問題	5. いじめ問題	6. 不登校	7. 児童虐待	8. 性に関する健康問題	9. 特別支援ニーズのある子ども問題	10. 飲酒・喫煙・薬物乱用防止	11. 慢性疾患を抱えた子ども(2回)	13. 災害および危機管理		14. 自己課題に対するプレゼンテーションおよびディスカッション		15. まとめ	
		1. ガイダンス	2. 養護教諭の歴史と職務の変遷																		
		3. 子どもの現代的な健康および発育発達の課題と養護教諭の新たな役割・機能																			
		4. 生活習慣に関わる健康問題	5. いじめ問題																		
6. 不登校	7. 児童虐待																				
8. 性に関する健康問題	9. 特別支援ニーズのある子ども問題																				
10. 飲酒・喫煙・薬物乱用防止	11. 慢性疾患を抱えた子ども(2回)																				
13. 災害および危機管理																					
14. 自己課題に対するプレゼンテーションおよびディスカッション																					
15. まとめ																					
評価方法	受講態度(30%)、レポート(30%)、プレゼンテーション(40%)																				

II. 分野高度専門職業人科目

生物統計学 演習	照屋 浩司 (公衆衛生学)	講義概要	集団のデータの基本的な取り扱い方法から、やや高度な生物統計学的手法までについて、模擬データを用いた演習を実施する。統計解析用アプリケーションとしては主にSPSSの使用を予定している。受講者の持ち寄ったデータについて、個々が必要とする統計手法を個別に指導することも行っていきたい。																
		学習目標	自身の研究や文献の抄読に役立てるために、生物統計学の基本的な考え方や手法を理解する。																
		授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 調査技法</td> <td>2. 統計学的解析の基礎(2回)</td> </tr> <tr> <td>3. クロス表分析</td> <td>4. 平均値の差の検定と分散分析(2回)</td> </tr> <tr> <td>5. 相関と回帰</td> <td>6. 多変量解析(2回)</td> </tr> <tr> <td>7. エクセルを用いた統計処理(2回)</td> <td>8. SPSSを用いた統計処理(3回)</td> </tr> <tr> <td>9. まとめ</td> <td></td> </tr> </table>	1. 調査技法	2. 統計学的解析の基礎(2回)	3. クロス表分析	4. 平均値の差の検定と分散分析(2回)	5. 相関と回帰	6. 多変量解析(2回)	7. エクセルを用いた統計処理(2回)	8. SPSSを用いた統計処理(3回)	9. まとめ							
		1. 調査技法	2. 統計学的解析の基礎(2回)																
		3. クロス表分析	4. 平均値の差の検定と分散分析(2回)																
		5. 相関と回帰	6. 多変量解析(2回)																
7. エクセルを用いた統計処理(2回)	8. SPSSを用いた統計処理(3回)																		
9. まとめ																			
評価方法	受講態度(60%)、レポートないし口頭試問(40%)																		
講義概要																			
学習目標																			
地域保健福祉論	加藤 英世 (母子保健学)	講義概要	介護保険法改定に伴い、地域包括支援・障害者自立支援の展開が進む中、医療と保健・福祉の多角的視点での取り組みが必要十分条件である。この点をふまえて事例を基に論述する。																
		学習目標	ライフステージごとの保健福祉の問題を理解し、個人と集団(地域)の施策展開について学ぶ。																
		授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 保健福祉行政総論</td> <td>2. 保健福祉行政の財政</td> </tr> <tr> <td>3. 地域保健行政諸制度</td> <td>4. 地域保健活動</td> </tr> <tr> <td>5. 地域福祉活動</td> <td>6. 乳幼児保健福祉</td> </tr> <tr> <td>7. 児童保健福祉</td> <td>8. 児童虐待</td> </tr> <tr> <td>9. 高齢者保健福祉</td> <td>10. 地域医療</td> </tr> <tr> <td>11. 地域福祉</td> <td>12. 社会保障(保険制度)</td> </tr> <tr> <td>13. 保健・福祉制度</td> <td>14. 福祉制度</td> </tr> <tr> <td>15. 国際保健福祉</td> <td></td> </tr> </table>	1. 保健福祉行政総論	2. 保健福祉行政の財政	3. 地域保健行政諸制度	4. 地域保健活動	5. 地域福祉活動	6. 乳幼児保健福祉	7. 児童保健福祉	8. 児童虐待	9. 高齢者保健福祉	10. 地域医療	11. 地域福祉	12. 社会保障(保険制度)	13. 保健・福祉制度	14. 福祉制度	15. 国際保健福祉	
		1. 保健福祉行政総論	2. 保健福祉行政の財政																
		3. 地域保健行政諸制度	4. 地域保健活動																
		5. 地域福祉活動	6. 乳幼児保健福祉																
7. 児童保健福祉	8. 児童虐待																		
9. 高齢者保健福祉	10. 地域医療																		
11. 地域福祉	12. 社会保障(保険制度)																		
13. 保健・福祉制度	14. 福祉制度																		
15. 国際保健福祉																			
評価方法	受講態度(50%)、レポート(30%)、口頭試問(20%)																		
講義概要																			
学習目標																			
環境影響 評価技術	金子 哲也 (環境保健学・人類生態学)	講義概要	環境因子による健康影響の定量的評価について基本事項を確認する。ついで基本的な統計的手法を整理してから、演習用データについて統計学的なアプローチによる推理を試みる。演習用データ収集または作成に当たっては、社会調査技法の基礎として質問調査票の作成原則、または観測・測定におけるデータ処理の原則についても確認を行う。																
		学習目標	環境要因への曝露により生じた健康や生活への影響を、数理的、客観的に把握し、評価する力を修得する。																
		授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 生物統計学の基礎知識の確認(小試験)</td> </tr> <tr> <td>2. 主要関心分野の把握、主題の調整</td> </tr> <tr> <td>3. 解析対象データの収集, 仮想データの構築-1</td> </tr> <tr> <td>4. 概要把握・推論および解析方針の決定</td> </tr> <tr> <td>5. 上記に基づく解析および結果の解釈(1)</td> </tr> <tr> <td>6. 上記に基づく解析および結果の解釈(2)</td> </tr> <tr> <td>7. 上記に基づく解析および結果の解釈(3)</td> </tr> <tr> <td>8. 概要把握・推論および解析方針の決定</td> </tr> <tr> <td>9. 解析対象データの収集, 仮想データの構築-2</td> </tr> <tr> <td>10. 上記に基づく解析および結果の解釈(1)</td> </tr> <tr> <td>11. 上記に基づく解析および結果の解釈(2)</td> </tr> <tr> <td>12. 上記に基づく解析および結果の解釈(3)</td> </tr> <tr> <td>13. 上記に基づいた総合的解釈</td> </tr> <tr> <td>14. 統計的解析手技の総括</td> </tr> <tr> <td>15. まとめ</td> </tr> </table>	1. 生物統計学の基礎知識の確認(小試験)	2. 主要関心分野の把握、主題の調整	3. 解析対象データの収集, 仮想データの構築-1	4. 概要把握・推論および解析方針の決定	5. 上記に基づく解析および結果の解釈(1)	6. 上記に基づく解析および結果の解釈(2)	7. 上記に基づく解析および結果の解釈(3)	8. 概要把握・推論および解析方針の決定	9. 解析対象データの収集, 仮想データの構築-2	10. 上記に基づく解析および結果の解釈(1)	11. 上記に基づく解析および結果の解釈(2)	12. 上記に基づく解析および結果の解釈(3)	13. 上記に基づいた総合的解釈	14. 統計的解析手技の総括	15. まとめ	
		1. 生物統計学の基礎知識の確認(小試験)																	
		2. 主要関心分野の把握、主題の調整																	
		3. 解析対象データの収集, 仮想データの構築-1																	
4. 概要把握・推論および解析方針の決定																			
5. 上記に基づく解析および結果の解釈(1)																			
6. 上記に基づく解析および結果の解釈(2)																			
7. 上記に基づく解析および結果の解釈(3)																			
8. 概要把握・推論および解析方針の決定																			
9. 解析対象データの収集, 仮想データの構築-2																			
10. 上記に基づく解析および結果の解釈(1)																			
11. 上記に基づく解析および結果の解釈(2)																			
12. 上記に基づく解析および結果の解釈(3)																			
13. 上記に基づいた総合的解釈																			
14. 統計的解析手技の総括																			
15. まとめ																			
評価方法	受講態度(50%)、レポート(50%)																		
講義概要																			
学習目標																			

特別講義Ⅲ (健康と社会関係資本)	太田ひろみ (看護養護教育学専攻)	講義概要	近年公衆衛生学の分野で注目されているソーシャル・キャピタルについて、基本的な理解を図る。そのうえで、健康との関わりについて、国内外の研究も含めた先行研究を検討することにより、ソーシャル・キャピタルが人々の健康にどのように貢献するかを考察する。
		学習目標	・ソーシャル・キャピタルの理論を理解し、説明できる。 ・先行研究を分析することにより、これまでの研究の流れを理解する。
		授業計画	1. ガイダンス 2. ソーシャル・キャピタルとは 3. ソーシャル・キャピタルの基本理論 4. 社会の中の信頼・互酬性・ネットワーク 5. 信頼と健康 6. 互酬性と健康 7. ネットワークと健康 8. 母子の健康とソーシャル・キャピタル 9. 学童の健康とソーシャル・キャピタル 10. 思春期のソーシャル・キャピタル 12 - 14. 国内外の実証研究の検討 15. まとめ
		評価方法	レポート (50%)、受講態度 (30%)、口頭試問 (20%)
		講義概要	養護活動の過程に関する文献検討およびケーススタディにより、養護実践への理解を深め、知識基盤を整理し、実践力を磨く
特別講義Ⅳ (養護実践論)	亀崎路子 (看護養護教育学専攻)	学習目標	養護活動場面における養護実践について自身の考えが述べられる
		授業計画	1. ガイダンス 2. 養護活動の展開 3. 保健室経営 4. ニーズ把握 (保健室来室時の対応、健康観察、健康診断、関係者の情報把握等、3回) 7. 養護実践における支援方法 (3回) 10. 健康能力の育成 11. 子ども支援の協働化と組織活動の推進 12. 学校内外の関係者との連携・協働 13. 地域ネットワークづくり 14. 自己課題のプレゼンテーションおよびディスカッション 15. まとめ
		評価方法	受講態度 (30%)、レポート (30%)、プレゼンテーション (40%)
		講義概要	養護活動の過程に関する文献検討およびケーススタディにより、養護実践への理解を深め、知識基盤を整理し、実践力を磨く
		学習目標	養護活動場面における養護実践について自身の考えが述べられる

Ⅲ. 特別研究

授業科目	担当者	講義概要	
特別研究	金子哲也 (環境保健学・人類生態学)	環境保健学分野における各自の学問的興味に沿って研究課題を設定し、先行研究を精査ののち、探索研究または仮説検証研究を行ってデータを収集・解析する。結果は科学的考察を加え、学術論文としてまとめる。	
		学習目標	下記能力の修得を目標とする。 1. 科学的に基づいて考察する。 2. 的確に情報を収集し、分析する。 3. 論理的に考察し、論述する。
		授業計画	1-4. 研究課題の探求：各自の興味を、先行研究の精査を通して具体的研究課題へまとめ上げる。 5-8. 研究計画の概要をまとめ、試行的調査／実験を行って、評価、修正を行う。 9-10. 試行結果に基づいて本調査・実験の計画を再構築する 11-25. 本調査／実験を行う 26-30. 論文にまとめ、発表する
		評価方法	論文をもって評価する。
		講義概要	環境保健学分野における各自の学問的興味に沿って研究課題を設定し、先行研究を精査ののち、探索研究または仮説検証研究を行ってデータを収集・解析する。結果は科学的考察を加え、学術論文としてまとめる。

特別研究	加藤英世 (母子保健学)	保健学・医学を基に、看護学、保健社会学、保健管理学、地域保健福祉学、学校保健学などの周辺領域の知識を増やし、学際的に各修士論文を組み立てた上で、根幹となるテーマに取り組む。																																													
		学 習 目 標																																													
		大学院生の各テーマに関連する様々な領域の知識を確実にし、科学的に分析・解釈・プレゼンテーションが出来るようにする。																																													
		授 業 計 画																																													
		<table border="0"> <tr> <td>1. 研究とは</td> <td>2. 社会調査理論</td> </tr> <tr> <td>3. 実験手法</td> <td>4. 文献調査法</td> </tr> <tr> <td>5. 文献の読み方</td> <td>6. 統計手法 パラメトリック</td> </tr> <tr> <td>7. 統計手法 ノンパラメトリック</td> <td>8. フィールド調査の基礎 I</td> </tr> <tr> <td>9. フィールド調査の基礎 II</td> <td>10. 文献収集 I</td> </tr> <tr> <td>11. 文献収集 II</td> <td>12. 文献収集 III</td> </tr> <tr> <td>13. 文献考察 I</td> <td>14. 文献考察 II</td> </tr> <tr> <td>15. 文献考察 III</td> <td>16. ディスカッション I</td> </tr> <tr> <td>17. ディスカッション II</td> <td>18. ディスカッション III</td> </tr> <tr> <td>19. ディスカッション IV</td> <td></td> </tr> <tr> <td>20. 大学院生個々のテーマに基づく指導</td> <td></td> </tr> <tr> <td>21. 大学院生個々のテーマに基づく指導</td> <td></td> </tr> <tr> <td>22. 大学院生個々のテーマに基づく指導</td> <td></td> </tr> <tr> <td>23. 大学院生個々のテーマに基づく指導</td> <td></td> </tr> <tr> <td>23. 大学院生個々のテーマに基づく指導</td> <td></td> </tr> <tr> <td>25. 保健統計の解析と解釈</td> <td>26. 保健統計の解析と解釈</td> </tr> <tr> <td>27. 保健統計の解析と解釈</td> <td>28. プレゼンテーション法</td> </tr> <tr> <td>29. プレゼンテーション法</td> <td>30. 総括</td> </tr> </table>	1. 研究とは	2. 社会調査理論	3. 実験手法	4. 文献調査法	5. 文献の読み方	6. 統計手法 パラメトリック	7. 統計手法 ノンパラメトリック	8. フィールド調査の基礎 I	9. フィールド調査の基礎 II	10. 文献収集 I	11. 文献収集 II	12. 文献収集 III	13. 文献考察 I	14. 文献考察 II	15. 文献考察 III	16. ディスカッション I	17. ディスカッション II	18. ディスカッション III	19. ディスカッション IV		20. 大学院生個々のテーマに基づく指導		21. 大学院生個々のテーマに基づく指導		22. 大学院生個々のテーマに基づく指導		23. 大学院生個々のテーマに基づく指導		23. 大学院生個々のテーマに基づく指導		25. 保健統計の解析と解釈	26. 保健統計の解析と解釈	27. 保健統計の解析と解釈	28. プレゼンテーション法	29. プレゼンテーション法	30. 総括									
1. 研究とは	2. 社会調査理論																																														
3. 実験手法	4. 文献調査法																																														
5. 文献の読み方	6. 統計手法 パラメトリック																																														
7. 統計手法 ノンパラメトリック	8. フィールド調査の基礎 I																																														
9. フィールド調査の基礎 II	10. 文献収集 I																																														
11. 文献収集 II	12. 文献収集 III																																														
13. 文献考察 I	14. 文献考察 II																																														
15. 文献考察 III	16. ディスカッション I																																														
17. ディスカッション II	18. ディスカッション III																																														
19. ディスカッション IV																																															
20. 大学院生個々のテーマに基づく指導																																															
21. 大学院生個々のテーマに基づく指導																																															
22. 大学院生個々のテーマに基づく指導																																															
23. 大学院生個々のテーマに基づく指導																																															
23. 大学院生個々のテーマに基づく指導																																															
25. 保健統計の解析と解釈	26. 保健統計の解析と解釈																																														
27. 保健統計の解析と解釈	28. プレゼンテーション法																																														
29. プレゼンテーション法	30. 総括																																														
評 価 方 法																																															
修士論文(80%) 文献考察(10%) プレゼンテーション(10%)																																															
特別研究	照屋浩司 (公衆衛生学)	講 義 概 要																																													
		修士論文の作成に必要な資・試料の収集、関連する文献の批判的な読解、論文作成に向けての論述方法などについて指導する。																																													
		学 習 目 標																																													
		自らの関心および研究計画に基づき、修士論文の作成に向けて調査や検討を行い、論文を作成する手順について理解する。																																													
		授 業 計 画																																													
<table border="0"> <tr> <td>1. 研究指導全体のオリエンテーション</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2. 研究計画の確認およびスケジュールの調整</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3. 資・試料の収集方法について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>4. 関連文献の収集方法について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>5. 研究の倫理について</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6. 先行研究の検討1 研究目的の明確化</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. 先行研究の検討2 先行研究の問題点と課題</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. 研究目的と研究方法の妥当性の検討</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. 研究の意義の明確化</td> <td>10. 関連文献の整理</td> </tr> <tr> <td>11. 関連文献の意味づけ</td> <td>12. 論文の構成と整理</td> </tr> <tr> <td>13. 論文指導1</td> <td>14. 論文指導2</td> </tr> <tr> <td>15. 論文指導3</td> <td>16. 論文指導4</td> </tr> <tr> <td>17. 論文指導5</td> <td>18. 論文指導6</td> </tr> <tr> <td>19. 論文指導7</td> <td>20. 論文指導8</td> </tr> <tr> <td>21. 論文指導9</td> <td>22. 論文指導10</td> </tr> <tr> <td>23. 論文提出の準備1 要旨等の作成</td> <td></td> </tr> <tr> <td>24. 論文提出の準備2 要旨等の検討</td> <td></td> </tr> <tr> <td>25. 論文発表の準備1 プレゼンテーションの準備1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>26. 論文発表の準備2 プレゼンテーションの準備2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>27. 論文発表の準備3 プレゼンテーションの準備3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>28. 論文発表の準備4 プレゼンテーションおよび質疑応答の予行1</td> <td></td> </tr> <tr> <td>29. 論文発表の準備5 プレゼンテーションおよび質疑応答の予行2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>30. 全体のまとめ</td> <td></td> </tr> </table>		1. 研究指導全体のオリエンテーション		2. 研究計画の確認およびスケジュールの調整		3. 資・試料の収集方法について		4. 関連文献の収集方法について		5. 研究の倫理について		6. 先行研究の検討1 研究目的の明確化		7. 先行研究の検討2 先行研究の問題点と課題		8. 研究目的と研究方法の妥当性の検討		9. 研究の意義の明確化	10. 関連文献の整理	11. 関連文献の意味づけ	12. 論文の構成と整理	13. 論文指導1	14. 論文指導2	15. 論文指導3	16. 論文指導4	17. 論文指導5	18. 論文指導6	19. 論文指導7	20. 論文指導8	21. 論文指導9	22. 論文指導10	23. 論文提出の準備1 要旨等の作成		24. 論文提出の準備2 要旨等の検討		25. 論文発表の準備1 プレゼンテーションの準備1		26. 論文発表の準備2 プレゼンテーションの準備2		27. 論文発表の準備3 プレゼンテーションの準備3		28. 論文発表の準備4 プレゼンテーションおよび質疑応答の予行1		29. 論文発表の準備5 プレゼンテーションおよび質疑応答の予行2		30. 全体のまとめ	
1. 研究指導全体のオリエンテーション																																															
2. 研究計画の確認およびスケジュールの調整																																															
3. 資・試料の収集方法について																																															
4. 関連文献の収集方法について																																															
5. 研究の倫理について																																															
6. 先行研究の検討1 研究目的の明確化																																															
7. 先行研究の検討2 先行研究の問題点と課題																																															
8. 研究目的と研究方法の妥当性の検討																																															
9. 研究の意義の明確化	10. 関連文献の整理																																														
11. 関連文献の意味づけ	12. 論文の構成と整理																																														
13. 論文指導1	14. 論文指導2																																														
15. 論文指導3	16. 論文指導4																																														
17. 論文指導5	18. 論文指導6																																														
19. 論文指導7	20. 論文指導8																																														
21. 論文指導9	22. 論文指導10																																														
23. 論文提出の準備1 要旨等の作成																																															
24. 論文提出の準備2 要旨等の検討																																															
25. 論文発表の準備1 プレゼンテーションの準備1																																															
26. 論文発表の準備2 プレゼンテーションの準備2																																															
27. 論文発表の準備3 プレゼンテーションの準備3																																															
28. 論文発表の準備4 プレゼンテーションおよび質疑応答の予行1																																															
29. 論文発表の準備5 プレゼンテーションおよび質疑応答の予行2																																															
30. 全体のまとめ																																															
評 価 方 法																																															
日常の研究態度、研究論文の完成度なども含め、総合的に評価する (100%)。																																															

特別研究	太田ひろみ (看護実践教育学専攻)	講義概要	近年公衆衛生学の分野で注目されているソーシャル・キャピタルについて、基本的な理解を図る。そのうえで、年齢や社会経済的状況が異なることで健康との関わりがどのように変化するか、国内外の研究も含めて先行研究を検討することにより、ソーシャル・キャピタルが人々の健康にどのように貢献するかを考察する。
		学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャル・キャピタルの理論を理解し、説明できる。 ・先行研究を分析することにより、これまでの研究の流れを理解する。 ・社会の中でソーシャル・キャピタルを育む活動について考察することができる。
		授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. ソーシャル・キャピタルの基本的理解 I 3. ソーシャル・キャピタルの基本的理解 II 4. Putnumの理論-哲学する民主主義- 5. Bourdieuの理論 6. 分析レベル -個人レベル- 7. 分析レベル -社会レベル- 8. これまでの研究の流れ 9. 信頼と健康1 10. 信頼と健康2 11. 互酬性と健康1 12. 互酬性と健康2 13. ネットワークと健康1 14. ネットワークと健康2 15. 母と子の健康とソーシャル・キャピタル 16. 学童の健康とソーシャル・キャピタル 17. 思春期のソーシャル・キャピタル 18. 職場の健康とソーシャル・キャピタル 19. 高齢者の健康とソーシャル・キャピタル 20. コミュニティの健康とソーシャル・キャピタル 21. ソーシャルサポートとの違いは何か 22. ジェンダーと社会的ネットワーク 23. 世界の実証研究1 24. 世界の実証研究2 25. 日本における実証研究1 26. 日本における実証研究2 27. 地域における安全と健康 28. 人々の間にある「つながり」の力 29. 今後の研究課題 30. まとめ
		評価方法	受講態度40%、プレゼンテーション40%、レポート20%
		講義概要	質的記述の方法を用いた研究論文のクリティークを通して、質的研究のプロセスと方法を学び、研究をデザインする
		学習目標	質的研究論文のクリティークができ、自身の研究テーマに対する研究計画を立てることができる
特別研究	亀崎路子 (看護実践教育学専攻)	授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 質的研究とは 3. 質的研究のプロセスについて 4. 研究の問い 5. 文献検討 6. フィールドへのアクセスおよび調査対象の選定 7. データ収集 8. データ分析 9. 質の確保のための方法 10. 倫理的配慮 11. 主な質的研究の手法 12. 論文の構成 13 - 24. 研究論文クリティーク 25 - 28. 研究をデザインする 29. 自己課題のプレゼンテーションおよびディスカッション 30. まとめ
		評価方法	受講態度40%、プレゼンテーション40%、レポート20%
		講義概要	質的記述の方法を用いた研究論文のクリティークを通して、質的研究のプロセスと方法を学び、研究をデザインする
		学習目標	質的研究論文のクリティークができ、自身の研究テーマに対する研究計画を立てることができる
		授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. 質的研究とは 3. 質的研究のプロセスについて 4. 研究の問い 5. 文献検討 6. フィールドへのアクセスおよび調査対象の選定 7. データ収集 8. データ分析 9. 質の確保のための方法 10. 倫理的配慮 11. 主な質的研究の手法 12. 論文の構成 13 - 24. 研究論文クリティーク 25 - 28. 研究をデザインする 29. 自己課題のプレゼンテーションおよびディスカッション 30. まとめ
		評価方法	受講態度40%、プレゼンテーション40%、レポート20%

《今年度休講科目》
・保健福祉制度論

保健学専攻 博士前期課程

臨床工学分野

I. 分野基幹科目

授業科目	担当者	講義概要
生理学特論	嶋津 秀昭 (生理・生体工学・ 医用情報工学)	生体計測は医療における診断や治療に関わる大切な領域である。また、人の関わる技術分野において、人の能力や限界など、人間の特性を評価する上でも不可欠の技術である。生理学特論では、生態の情報を生理学的な基礎に基づいて解説しながら、正しく計測する方法について学び、その重要性と有用性を理解する。
		学 習 目 標
		生体計測の考え方から具体的手法に至るまで、歴史的経緯を説明し、現在に至るまでの技術的な進歩について考察する。
		授 業 計 画
		1. 生体計測法 (1 - 5. 感覚計の計測) 2. 生体計測法 (6 - 10. 生体物理量の計測) 3. ランスデューサ (11 - 13) 4. 生体計測と安全 (14 - 15)
		評 価 方 法
		受講態度(50%)、レポート(50%)
臨床生理学特論	三谷 博子 (臨床生理学・ 用応用工学)	講義概要
		ストレス環境の中でヒトの生理学的機能、特に自律神経系に及ぼす影響について講義すると共に、それが大脳の本質的機能である知覚、認識、記憶、判断能力にも影響するため、その評価法、検査法について文献抄読を含めて考察する。
		学 習 目 標
		授 業 計 画
		1. ストレス要因と病態 2. ストレスと自律神経機能について 3. 自律神経機能検査法(2回) 4. 内因性・外因性刺激による交感神経皮膚反応(SSR)の測定法 5. 外因性刺激によるストレス誘引とSSRの関係(2回) 6. 外部刺激と知覚認識能力の大脳機能局在について(2回) 7. オドボール課題によるP100・P300について(2回) 8. 事象関連電位関連英文抄読(2回) 9. 事象関連電位とSSRによるストレス要因分析(2回)
		評 価 方 法
		受講態度(20%)、レポート(10%)、口頭試問(50%)、その他(20%)

II. 分野高度専門職業人科目

授業科目	担当者	講義概要
医用基礎工学	嶋津 秀昭 (生理・生体工学・ 医用情報工学) 小林 博子 (生理・生体工学)	1. 医療系学生のための物理学 2. 単位論と工学の概論 3. 工学的立場から考える生理学的現象
		学 習 目 標
		医学的な知識を単に網羅的に記憶することから離れて、工学的立場に立脚して理論的な観点から生命現象を見直すことができる。
		授 業 計 画
		1 - 2. サイエンスにおける単位の意味(2回)(嶋津) 3. 工学単位とディメンジョン(嶋津) 4. 物理学から工学へ(嶋津) 5 - 6. 材料とその性質(2回)(小林) 7. 物理的エネルギーと生体作用(小林) 8. 物質の成り立ちと生命現象(小林) 9 - 12. 流体力学の基礎(4回)(嶋津) 13 - 15. 循環系と流体力学(3回)(嶋津)
		評 価 方 法
		単位認定者(小林先生):受講態度(50%)、レポート(50%)

血液浄化療法学	副島 昭典 (血液浄化療法学)	講義概要	腎機能の低下による広範な全身性の代謝異常を理解し得る専門的な知識を習得させる。
		学習目標	腎不全患者でみられる病態を理解し、適切な治療法が選択できる。
		授業計画	1. 腎臓の臨床解剖と微細構造 2. 腎・尿路の画像診断 3. 糸球体濾過と尿細管再吸収-1 4. 糸球体濾過と尿細管再吸収-2 5. 体液の組成 6. 酸塩基平衡 7. 原発性糸球体疾患-1 8. 原発性糸球体疾患-2 9. 尿細管間質性腎炎 10. 急性腎不全/慢性腎不全 11. アクアポリン、メガリンとキュビリン 12. 副甲状腺ホルモンと骨代謝 13. 腎性貧血とエリスロポエチン、ヘプシジン 14. ビタミンDの活性化とFGF23 15. まとめ
		評価方法	受講態度(10%)、レポート(60%)、口頭試問(30%)
		講義概要	
心電学	四倉 正之 (循環器病態生理学)	講義概要	心電学の基礎知識と実践的知識と臨床応用に関する解説。
		学習目標	1. 標準12誘導心電図、2. 微小電位心電図、3. 運動負荷心電図、4. ホルター心電図の基礎知識を習得し、それぞれを診断できるようになる。
		授業計画	1. 心電図の基礎I 2. 心電図の基礎II 3. 心電図の基礎III 4. 不整脈I 5. 不整脈II 6. 不整脈III 7. 虚血性心疾患I 8. 虚血性心疾患II 9. 虚血性心疾患III 10. ホルター心電図 11. 運動負荷心電図 12. 微小電位心電図 13. 診断演習I 14. 診断演習II 15. 診断演習III
		評価方法	受講態度(20%)、レポート(40%)、口頭試問(40%)
		講義概要	
臨床神経生理学	小池 秀海 (神経生理学)	講義概要	神経系の機能を理解するために必要な神経生理学の基礎的な知識、特に日常臨床に役立つと思われる知識を、細胞レベルから高次脳機能に至るレベルまでを整理して講義する。
		学習目標	神経系の活動について受容体レベルから大脳の高次神経活動まで、特徴を説明することができる。
		授業計画	1. 脳脊髄の構造 2. 神経系における情報伝達の仕組み(2回) 3. 視覚系の生理学(3回) 4. 体性感覚系の生理学 5. 聴覚・平衡覚の生理学 6. 運動系の生理学(3回) 7. 意識・注意の生理学(2回) 8. 記憶・学習の生理学 9. 総合討論
		評価方法	受講態度と質疑討論の内容で判断する(100%)。
		講義概要	
先端臨床工学	中島 章夫 (先端臨床工学)	講義概要	臨床現場で用いられている最新の治療機器・生体計測装置についての理解を深めると共に、臨床工学分野で行われている研究について紹介する。また学生各自が興味を持った機器・設備について調査を行い、輪講形式でPPを用いた発表・討論会を行う。
		学習目標	各種治療機器・生体計測装置の原理構造を元に、医療現場で教育指導できる能力を養う。
		授業計画	1. ガイダンス 2 - 7. 輪講:治療機器 8. 総合討論:前半まとめ 9 - 13. 輪講:生体計測装置 14. 総合討論:後半まとめ 15. 口頭試験
		評価方法	受講態度(10%)、レポート(30%)、口頭試問(30%)、その他(発表討論30%)
		講義概要	

医用情報システム工学	田中 薫 (医用情報工学)	講義概要	コンピュータによる情報処理の仕組みとシステムの実際について理解を深める。各種センサや出力機器を接続したマイコンボードおよびレゴマインドストームのプログラミングを行う。
		学習目標	学生自身でコンピュータの周辺回路を設計し組み立てる。併せてこれらを目的に沿った動作が出来るようプログラムを作成する。また、フィードバックなどシステムについて理解する。
		授業計画	1. マイクロプロセッサについて 2. 周辺回路設計(2回) 3. センサ回路(2回) 4. 出力回路(2回) 5. プログラミングの基本(2回) 6. プログラミングの応用(2回) 7. デバッグとシステムの評価(3回) 8. まとめ
		評価方法	受講態度(20%)、レポート(80%)
		講義概要	人工臓器のように、耐久性、生体適合性など様々な必要条件を同時に満たしつつ、目的とする機能を実現するためには包括的な工学知識が必要となる。本講義では、実際に人工臓器に応用されている工学技術について解説する。
人工臓器工学	福長 一義 (先端臨床工学)	学習目標	人工心臓に応用されている工学技術を中心に専門的な知識を習得することで、高度な人工臓器を適切に取り扱えるようになる。
		授業計画	1. 人工臓器の概要 2-4. ポンプ 5-7. アクチュエータ 8. 制御 9. バッテリ 10. エネルギー伝送 11-12. 材料 13-14. 評価試験法 15. まとめ
		評価方法	受講態度(30%)、レポート(40%)、口頭試問(30%)
		講義概要	人工臓器のように、耐久性、生体適合性など様々な必要条件を同時に満たしつつ、目的とする機能を実現するためには包括的な工学知識が必要となる。本講義では、実際に人工臓器に応用されている工学技術について解説する。
		学習目標	学生自身でコンピュータの周辺回路を設計し組み立てる。併せてこれらを目的に沿った動作が出来るようプログラムを作成する。また、フィードバックなどシステムについて理解する。

Ⅲ. 特別研究

授業科目	担当者	講義概要	
特別研究	嶋津 秀昭 (生理・生体工学・医用情報工学)	各自の専門分野における研究テーマの決定と、それに沿った研究の遂行計画を学ぶ。研究に必要な文献の検索と検討を行う。研究に必要な装置の設計、製作、実験などのデータを分析し、論文作成の過程を通して学術論文として公表する能力を修得する。	
		学習目標	妥当な研究計画の立案、装置の設計製作、実験データの解析、論理的な論文作成ができること
		授業計画	1 - 5. 研究テーマ・計画の検討・討論 6 - 10. 文献の検討・討論 11 - 25. 収集データの検討・討論 26 - 28. 論文作成の指導・討論 29. プレゼンテーションの検討 30. まとめ
		評価方法	研究態度(10%)、論文(80%)、口頭試問(10%)
		講義概要	腎臓病学の分野の研究について文献の調査や研究計画立案の方法、さらに論文の執筆まで具体的な方法を指導する。
特別研究	副島 昭典 (血液浄化療法学)	学習目標	仮説を設定した研究プロトコルの立案ができる。
		授業計画	1. 研究テーマの選択と文献調査の方法 2. 仮説の設定と研究計画 3. データの収集とグラフの作成、検定 4. 原著論文の書式と表現方法 上記を全30回で実施
		評価方法	口頭試問(70%)、授業態度(30%)の割合で評価する。
		講義概要	腎臓病学の分野の研究について文献の調査や研究計画立案の方法、さらに論文の執筆まで具体的な方法を指導する。
		学習目標	学生自身でコンピュータの周辺回路を設計し組み立てる。併せてこれらを目的に沿った動作が出来るようプログラムを作成する。また、フィードバックなどシステムについて理解する。

特別研究	四倉正之 (循環器病態生理学)	講義概要
		循環器分野の研究課題の選択、研究の方法から論文作成までの実際的な方法を指導する。
		学習目標
		独力で研究テーマを見いだして、研究計画をたて、実際に研究を行い、結果を分析し、論文を作成できるようにする。
		授業計画
		1. 循環器分野の研究テーマの検討と選択 2. 研究方法の検討 3. 結果の分析と考察 4. 論文作成 上記を全30回で実施
		評価方法
		受講態度 (50%)、口頭試問 (50%)
特別研究	小池秀海 (神経生理学)	まず各自の研究テーマに関する総論的知識および先行研究のレビューを行う。その上で限られた研究期間内に何をどこまで明らかにするのか、そのために採用すべき実験方法および検索対象、統計学的手法等について検討する。さらに結果の解釈について議論し、論文作成能力を育む。
		学習目標
		1. 様々な観点から問題点を整理し、解決する能力 (問題解決能力) を身につける。 2. 研究課題の設定方法、研究遂行に必要な実験計画や統計学的な知識が身につく。 3. 得られた実験結果について適切な解釈ができる。 4. 期間内に修士論文を作成する。
		授業計画
		1. 神経生理学の基礎的知識 (5回) 2. 研究テーマに関する先行研究のレビュー (10回) 3. 研究方法、実験計画 (3回) 4. 結果の整理と統計処理 (5回) 5. 結果の解釈 (3回) 6. 論文作成 (4回)
		評価方法
		提出論文 (90%)、論文作成への取り組み (10%)

《今年度休講科目》

- ・特別講義 I ・特別講義 II
- ・特別講義 III ・特別講義 IV

保健学専攻 博士前期課程

救急救命学分野

I. 分野基幹科目

授業科目	担当者	講義概要
プレホスピタル 外傷学特論	和田 貴子 (救急救命学)	病院前医療において、1. 外傷患者の重症度を的確に判断し、2. その重症度に応じた適切な医療機関に、3. 迅速な搬送をする、という理論と救護の手順を標準化した教育プログラムを中心に学ぶ。
		学 習 目 標
		病院前医療における、外傷患者の重症度と適切な医療機関に迅速な搬送をする、ポイントを修得すること。
		授 業 計 画
		1. 疫学、外傷システム及び外傷の分類と重症度評価 2. 現場における観察・処置の流れ 3. 観察処置の手順、安全確保 4. 全身観察、傷病者固定と搬送開始、車内活動 5. 外傷現場での感染防御 6. 外傷キット、状況評価 7. 初期評価と蘇生処置 8. 全身観察と緊急処置 9. 重点観察と穿通外傷 10. ログロールと全脊柱固定 11. 各論(CPA、体温低下、脊椎脊髄損傷) 12. 頭部外傷、顔面・前頭部外傷 13. 胸部外傷 14. 腹部外傷 15. その他の外傷と多数傷病者
評 価 方 法		
		筆記試験(90%)、受講態度と出席率(10%)
脳神経外科学 特論	小西 善史 (神経機能制御外科学)	講義概要
		救急救命士あるいはそれに準ずる社会人を対象に、特に脳血管障害症候に対する状況判断、バイタルサインを中心に、それに関連した解剖、生理を復習し、また外科的な治療の概要まで踏み込んだ判断を講義する。
		学 習 目 標
		脳血管障害傷病者の対策
		授 業 計 画
1. 意識とは何か 2. 脳ヘルニア特に頭蓋内圧との生理学的特徴(2回) 3. 脳神経外科領域の意識障害患者の神経症候(2回) 4. 頭部外傷の分類・神経生理と病理・治療法(2回) 5. 脳血管障害の種類・生理と病理(2回) 6. 脳梗塞の種類・生理と病理・治療法(2回) 7. 脳出血の種類・生理と病理・治療法 8. くも膜下出血における種類・生理と病理・治療法 9. その他の脳血管障害の種類・病態生理について 10. まとめ		
評 価 方 法		
		受講態度(20%)、レポート(60%)、口頭試問(10%)、その他(10%)

II. 高度専門職業人養成科目

授業科目	担当者	講義概要
中毒学	和田 貴子 (救急救命学)	救急救命士に必要な急性中毒に関する一般的知識および対処法について教授する。またおよびNBCRテロに関する基礎的知識についても教授する。
		学 習 目 標
		救急救命士に必要な急性中毒の一般的知識および対処法のポイントを修得する。また、NBCR ; N(核兵器)、B(生物兵器)、C(化学兵器)及びR(放射能兵器)テロに関する知識及び対処法のポイントも修得する。
		授 業 計 画
		1. 急性中毒の基礎的知識(発生頻度、起因物質、重症度、診断など) 2. 急性中毒の治療(胃洗浄、下剤と吸着剤、強制利尿、血液浄化法、解毒薬・拮抗薬など) 3. 医薬品中毒(睡眠薬、向精神薬、解熱・鎮痛薬など) 4. 農薬中毒(パラコート、有機リン、グルホシネートなど) 5. 工業薬品中毒(重金属、有機溶剤、シアンなど) 6. ガス中毒(CO、亜硫酸ガス、塩素など) 7. アルコール中毒 8. 自然毒中毒(キノコ、フグ、トリカブトなど) 9. 家庭用品中毒(タバコ、防虫剤、酸・アルカリ、殺鼠剤など) 10. 覚醒剤中毒 11. NBCRテロ総論(疫学、種類など) 12. B(生物兵器)テロの概要と医療対応 13. C(化学兵器)テロの概要と医療対応 14. N(核兵器)及びR(放射能兵器)テロの概要と医療対応 15. まとめ
評 価 方 法		
		プレゼンテーション(100%)

保健学専攻 博士前期課程
リハビリテーション科学分野
I. 分野基幹科目

授業科目	担当者	講義概要
中枢神経系 理学療法学特論	潮見 泰蔵 (神経発達障害系 理学療法学)	本講義では、脳損傷後の機能回復を促進する因子について理解する。また機能回復評価学および治療学として、脳血管障害に対する基本的理解（病態、評価、治療、リハビリテーション）に関する基礎的研究とその方法論について教授する。特に、リハビリテーションの領域では脳損傷患者における機能的運動課題達成のための戦略的アプローチについて紹介する。さらに、近年、神経科学を基盤とするニューロリハビリテーションという新しい領域に関する研究成果についても紹介し、その理解を深める。
		学 習 目 標
		脳の可塑性と機能回復の関係について学習する。 機能回復のメカニズムとその促進因子について学習する。 機能回復に関与する運動学習および運動制御の諸理論とその応用について学習する。機能的動作の獲得を目標とした治療的介入について学習する。ニューロリハビリテーションにに関連した最新の研究論文を読み、検討を加える。
		授 業 計 画
		1. 脳卒中の病態 2. 脳損傷後の機能回復機序1 3. 脳損傷後の機能回復機序2 4. 脳卒中患者の機能評価と治療1 5. 脳卒中患者の評価と治療2 6. 脳卒中患者の機能評価と治療3 7. 脳損傷後の機能回復を促進する因子1 8. 脳損傷後の機能回復を促進する因子2 9. 機能回復に関連する運動学習理論とその応用 10. 機能回復に関連する運動制御理論とその応用 11. 脳損傷後の機能的運動課題達成のための戦略1 12. 脳損傷後の機能的運動課題達成のための戦略2 13. ニューロリハビリテーションにおける基礎研究 14. ニューロリハビリテーションと理学療法の関連 15. まとめ
		評 価 方 法 レポート(30%)、プレゼンテーション(40%)、口頭試問 (30%)
運動器系 理学療法学特論	齋藤 昭彦 (運動障害系 理学療法学)	講義概要 骨・関節・神経・筋の機能異常に対する評価およびマネージメントについて考察する。
		学 習 目 標
		骨・関節・神経・筋の機能異常に対する評価・マネージメントについて説明でき、実施できる。
		授 業 計 画
		1. クリニカルリーディング 2. 主観的検査 3. 客観的検査の総論 4. 腰椎1 5. 腰椎2 6. 股関節 7. 膝関節 8. 足関節・足部 9. 肩甲骨・肩関節 10. 肘関節 11. 手関節・手指 12. 頸椎 13. 胸椎 14. 骨盤 15. まとめ
		評 価 方 法 受講態度(20%)、レポート(40%)、プレゼンテーション(20%)
内部障害系 理学療法学特論	八並 光信 (内部障害系 理学療法学)	講義概要 主に内臓器疾患および血液疾患による身体的ディコンディショニングについて学習する。また、将来的に理学療法のニーズが高まる造血幹細胞移植や生体肝部分移植などの先進医療における理学療法の関わり方について教授する。
		学 習 目 標
		内部疾患の病態および薬物療法について理解する。特に臓器移植に関しては、移植治療の概要と免疫抑制剤の副作用を理解する。
		授 業 計 画
		1. 内部障害系理学療法の対象疾患 2. 呼吸器疾患(COPD)の病態と医学的治療 3. 呼吸器疾患の理学療法 4. 心疾患(AMI)の病態と医学的治療 5. 心疾患の理学療法 6. 糖尿病の病態整理と医学的治療 7. 糖尿病の理学療法 8. 肝硬変および肝癌の病態と医学的治療 9. 生体肝部分移植における理学療法 10. 白血病の病態医学的治療 11. 造血幹細胞移植の基礎的概念 12. 造血幹細胞移植の理学療法 13. 拒絶反応と生着不全 14. 免疫抑制剤の作用と副作用について 15. GVHDとウイルス感染時の理学療法
		評 価 方 法 レポート(60%)、プレゼンテーション(40%)

発達障害系 理学療法学特論	中野 尚子 (神経発達障害系 理学療法学)	講義概要	小児理学療法を学ぶ上で重要な点は、乳幼児期の間、脳は発達変化を続けているということである。新生児・乳児の自発運動の発達に焦点をあて、その質的变化について理解を深めることにより、脳性麻痺等何らかの神経学的障害を持つ児に対する早期理学療法プログラムについて検討する。
		学習目標	正常運動発達と異常発達、特に新生児・乳児の自発運動の質的变化について理解する。神経学的障害を持つ児に対する介入プログラムを検討する。
		授業計画	1. ガイダンス 2. 小児理学療法に必要な「発達学」という視点、発達理論の変遷 3. 正常運動発達；胎児期よりの発達 4-6. 新生児・乳児の自発運動, general movements(GMs)の見方 (3回) 7-8. GMsと発達予後の関連性 (2回) 9. GMs評価の客観化の試み 10. 小児理学療法における評価と治療の原則 11. 小児理学療法における基本的ハンドリング 12. 早産児への発達支援 13-14. 症例 (2回) 15. まとめ
		評価方法	受講態度(40%)、レポート(40%)、プレゼンテーション(20%)
		講義概要	高齡化社会における障害・要介護者に対する医療・保健・福祉システムの現状と課題、地域社会を基盤として行われるリハビリテーション各分野における理学療法について検討する。
地域リハビリテーション学特論	榎本 雪絵 (運動障害系 理学療法学)	学習目標	急性期、回復期、維持期リハビリテーション各期における理学療法士の専門性を理解し、健康増進事業や介護予防事業における理学療法士の役割と実践方法について説明できる。
		授業計画	1. 障害・要介護者における医療・保健・福祉システムの変遷と現状 2. 障害・要介護者における医療・保健・福祉システムの課題 3. 医療機関における理学療法の現状 4. 医療機関における理学療法の課題 5. 老人保健施設における理学療法士の役割 6. 特別養護老人ホームにおける理学療法士の役割 7. 在宅生活と理学療法 8. 健康増進事業における理学療法 9. 介護保険事業における理学療法(1) 10. 介護保険事業における理学療法(2) 11. 訪問リハビリテーション(1) 12. 訪問リハビリテーション(2) 13. 通所リハビリテーション(1) 14. 通所リハビリテーション(2) 15. まとめ
		評価方法	受講態度(20%)、レポート(60%)、プレゼンテーション(20%)
		講義概要	主として、理学療法士の資格を有する社会人を対象に、高齢者の生活機能における加齢変化、高齢者に特徴的な症候、高齢者理学療法における代表的な生活機能評価および運動介入について老年学および理学療法学に基づいて学ぶ。
		学習目標	高齢者の心身機能における加齢変化、特徴的な症候について理解すること。 高齢者の生活機能評価、主な運動介入について理解すること。
高齢者 理学療法学特論	橋立 博幸 (神経発達障害系 理学療法学)	授業計画	1. 理学療法と高齢者への関わり、高齢者の定義および人口動態 2. 加齢変化と障害一心身機能 3. 加齢変化と障害一心身機能・活動・参加 4. 高齢者の特徴的な症候：老年症候群 5. 高齢者の特徴的な症候：サルコペニア 6. 高齢者の特徴的な症候：認知症・軽度認知障害 7. 高齢者に対する生活機能評価：心身機能・身体構造 8. 高齢者に対する生活機能評価：活動・参加 9. 高齢者の機能障害に対する運動療法：筋力 10. 高齢者の機能障害に対する運動療法：姿勢バランス 11. 高齢者の機能障害に対する運動療法：歩行 12. 中枢神経疾患を有する高齢者の理学療法に関するトピックス 13. 骨関節疾患を有する高齢者の理学療法に関するトピックス 14. 認知機能障害を有する高齢者の理学療法に関するトピックス 15. まとめ
		評価方法	受講態度(20%)、レポート(40%)、プレゼンテーション(40%)

運動機能障害 作業療法学特論	森田 千晶 (運動器障害 作業療法学)	講義概要	運動器系障害（頸髄損傷、関節リウマチ、上肢切断など）についての理解を深め、作業療法の視点から機能障害と日常生活活動（ADL）と福祉機器。義肢装具などの障害の代償手段について教授する
		学習目標	運動器障害による機能・活動障害と日常生活活動における障害像とその関連性について説明でき、福祉機器および義肢装具も含めた作業療法士としての介入方法が理解できる
		授業計画	1. オリエンテーション 運動器障害とは 2. 運動器障害の理解（頸髄損傷） 3. 運動器障害の理解（関節リウマチ） 4. 運動器障害の理解（上肢切断） 5. 運動器障害の理解（末梢神経障害） 6. 運動器障害の理解（その他） 7. 頸髄損傷の機能障害とADLおよび障害代償1 8. 頸髄損傷の機能障害とADLおよび障害代償2 9. 関節リウマチの機能障害とADLLおよび障害代償1 10. 関節リウマチの機能障害とADLLおよび障害代償2 11. 上肢切断の機能障害とADL1および障害代償 12. 上肢切断の機能障害とADL2および障害代償 13. 末梢神経障害の機能障害とADLおよび障害代償L 14. その他の運動器障害の機能障害とADLLおよび障害代償 15. まとめ
		評価方法	受講態度（20%）、レポート（60%）、プレゼンテーション（20%）
		講義概要	精神障害領域における作業療法について概説し、構成的評価、非構成的評価の両方を踏まえながら、精神障害作業療法の特徴について教授する。
		学習目標	精神障害領域における作業療法の治療構造、理論、具体的介入方法について理解する。精神科病院内、地域における作業療法の役割について理解する。
精神障害 作業療法学特論	長谷川 利夫 (精神障害 作業療法学)	授業計画	1. 精神の障害とは何か？ 2. 我が国の精神保健の歩み 3. 精神障害作業療法の構造 4. 精神障害作業療法における構成的評価 5. 精神障害作業療法における非構成的評価(1) 6. 精神障害作業療法における非構成的評価(2) 7. 精神障害作業療法における非構成的評価(3) 8. 作業療法計画の立案 9. 回復状態と作業療法 10. 統合失調症と作業療法 11. 長期入院者への生活支援 12. 地域生活支援と作業療法 13. 精神障害領域における就労支援と作業療法 14. 精神障害作業療法と理論 15. これからの精神障害作業療法
		評価方法	受講態度(20%)、レポート(60%)、プレゼンテーション(20%)
		講義概要	中枢神経障害における作業療法評価法および治療法について講義する。また、関連論文を選び、その研究デザインや結果について討論する。
		学習目標	中枢神経障害における作業療法評価法および治療法について理解する。また、作業療法介入における中枢神経系の可塑的变化について理解する。
		授業計画	1. 中枢神経系の理解（3回） 2. 中枢神経障害の理解（3回） 3. 中枢神経障害の回復機序 4. 中枢神経障害の評価法（2回） 5. 中枢神経障害の作業療法（3回） 6. 高次脳機能障害の概要 7. 高次脳機能障害の評価と介入 8. 中枢神経障害に対する作業療法の今後
		評価方法	レポート(50%)、プレゼンテーション(30%)、受講態度(20%)
神経系 作業療法学特論	丹羽 正利 (中枢神経障害 作業療法学)	講義概要	認知症により特徴的に引き起こされる機能・活動および生活の障害に対する評価ならびに具体的介入について教授する。
		学習目標	認知症の病型・診断、認知症により特徴的に引き起こされる機能・活動および生活の障害に対する評価ならびに具体的介入について理解する。
		授業計画	1. 認知症者を取り巻く社会 2. 病型・診断 3. 記憶の障害と評価 4. 言語・視空間性機能の障害と評価 5. 行為・遂行機能の障害と評価 6. 感情・思考機能の障害と評価 7. 活動の障害と評価 8. 生活の障害と評価 9. 介入・対応の基本 10. 介入:音楽・運動・学習的活動 11. 介入:回想・ゲーム 12. 介入:日常生活活動(その1) 13. 介入:日常生活活動(その2) 14. 介入:趣味・しごとの活動 15. まとめ
		評価方法	受講態度(20%)、レポート(60%)、プレゼンテーション(20%)
		講義概要	認知症により特徴的に引き起こされる機能・活動および生活の障害に対する評価ならびに具体的介入について教授する。
		学習目標	認知症の病型・診断、認知症により特徴的に引き起こされる機能・活動および生活の障害に対する評価ならびに具体的介入について理解する。
認知障害 作業療法学特論	下田 信明 (認知障害 作業療法学)	授業計画	1. 認知症者を取り巻く社会 2. 病型・診断 3. 記憶の障害と評価 4. 言語・視空間性機能の障害と評価 5. 行為・遂行機能の障害と評価 6. 感情・思考機能の障害と評価 7. 活動の障害と評価 8. 生活の障害と評価 9. 介入・対応の基本 10. 介入:音楽・運動・学習的活動 11. 介入:回想・ゲーム 12. 介入:日常生活活動(その1) 13. 介入:日常生活活動(その2) 14. 介入:趣味・しごとの活動 15. まとめ
		評価方法	受講態度(20%)、レポート(60%)、プレゼンテーション(20%)

II. 分野高度専門職業人科目

授業科目	担当者	講義概要
理学療法機能評価学演習	潮見泰藏 (神経発達障害系理学療法学)	根拠に基づく理学療法を推進する上で、標準的な機能評価指標を活用していくことが不可欠である。本演習ではリハビリテーション領域で利用される頻度の高い評価指標を中心に、その知識と活用方法について学ぶ。
		学 習 目 標
		標準的な臨床評価指標の開発経緯、適用、信頼性と妥当性を熟知した上で、検査方法が実施でき、適切な解釈ができるようになること。また、新しい評価指標の開発に必要な要件についても学ぶ。
		授 業 計 画
		1. 機能的帰結 (Functional outcome) とは (1回) 2. 機能評価指標のカテゴリーと種類 (2回) 3. 機能的評価指標を用いた研究紹介 (事例検討) (4回) 4. 評価指標 (テスト) の実施と結果・解釈 (5回) 5. 新しい評価指標を開発するための要件 (2回) 6. まとめ (1回)
評 価 方 法	受講態度 (50%) , レポート (50%)	
徒手理学療法学演習	齋藤昭彦 (運動障害系理学療法学)	講 義 概 要
		骨・関節・神経・筋の機能異常に対する評価およびマネージメントについて考察する。
		学 習 目 標
		骨・関節・神経・筋の機能異常に対する評価・マネージメントについて説明でき、実施できる。
		授 業 計 画
1. クリニカルリーズニング 2. 主観的検査 3. 客観的検査の総論 4. 腰椎1 5. 腰椎2 6. 股関節 7. 膝関節 8. 足関節・足部 9. 肩甲帯・肩関節 10. 肘関節 11. 手関節・手指 12. 頸椎 13. 胸椎 14. 骨盤 15. まとめ		
評 価 方 法	実技(40%)、レポート(40%)、プレゼンテーション(20%)	
理学療法研究方法演習	八並光信 (内部障害系理学療法学)	講 義 概 要
		理学療法における研究手続き、データ収集、データ解析方法について学習する。研究手続きやデータ収集に関しては、疫学的視点から考えられるようにバイアスなどの基礎的事項を学習する。データ解析は、サンプルデータを用いて、主にSPSSを使用して解析手法を学習する。
		学 習 目 標
		研究論文に対して批判的吟味をでき、その改善点を提案できるようにする。データ解析に関しては、データのタイプによって適切な統計手法を用いて各種の検定や多変量解析を行えるようにする。
		授 業 計 画
1. 臨床における研究課題の見つけ方 2. 研究計画書の書き方 3. 倫理審査に関して 4. 文献検索の方法 5. 研究方法 6. 疫学的注意事項 7. SPSSにおけるデータ入力方法 (I) 8. SPSSにおけるデータ入力方法 (II) 9. 基礎統計量 10. t検定 (対応なし, 対応あり) 11. 一要因の分散分析 (対応なし) 12. 一要因の分散分析 (対応あり) 13. 相関分析と回帰分析 14. χ^2 検定, ノンパラメトリック検定 15. まとめ		
評 価 方 法	レポート(60%)、プレゼンテーション(40%)	

発達障害理学療法学演習	中野 尚子 (神経発達障害系理学療法学)	講義概要	小児理学療法を学ぶ上で重要な点は、乳幼児期の間、脳は発達変化を続けているということである。新生児・乳児の自発運動の発達に焦点をあて、その質的变化について理解を深めることにより、脳性麻痺等何らかの神経学的障害を持つ児に対する早期理学療法プログラムについて検討する。
		学習目標	正常運動発達と異常発達、特に新生児・乳児の自発運動の質的变化について理解する。神経学的障害を持つ児に対する介入プログラムを検討する。
		授業計画	1. ガイダンス 2. 小児理学療法に必要な「発達学」という視点、発達理論の変遷 3. 正常運動発達；胎児期よりの発達 4-6. 新生児・乳児の自発運動、general movements (GMs) の見方 (3回) 7-8. GMs と発達予後の関連性 (2回) 9. GMs 評価の客観化の試み 10. 小児理学療法における評価と治療の原則 11. 小児理学療法における基本的ハンドリング 12. 早産児への発達支援 13-14. 症例 (2回) 15. まとめ
		評価方法	
		受講態度(40%)、レポート(40%)、プレゼンテーション(20%)	
地域理学療法学演習	榎本 雪絵 (運動障害系理学療法学)	講義概要	在宅生活において、様々な生活状況を呈する高齢者および要介護者に対する生活環境整備を含む理学療法の実践、法制度等の利用の実際について、事例検討を中心に検討する。
		学習目標	様々な生活状況を呈する高齢者および要介護者の、在宅生活継続のための理学療法プログラムおよび生活環境整備計画の立案と実践方法について説明できる。
		授業計画	1. 地域理学療法の実践と課題 2. 事例検討：特定高齢者（単身の場合） 3. 事例検討：特定高齢者（高齢夫婦世帯の場合） 4. 事例検討：要支援者 5. 事例検討：要介護1（運動器障害） 6. 事例検討：要介護2 7. 事例検討：要介護3（片麻痺） 8. 事例検討：要介護4 9. 事例検討：要介護5 10. 事例検討：認知症患者1 11. 事例検討：認知症患者2 12. 事例検討：脊髄損傷患者 13. 事例検討：進行性疾患患者 14. 事例検討：呼吸器疾患患者 15. まとめ
		評価方法	
		受講態度(20%)、レポート(60%)、プレゼンテーション(20%)	
高齢者理学療法学演習	橋立 博幸 (神経発達障害系理学療法学)	講義概要	主として、理学療法士の資格を有する社会人を対象に、高齢者の生活機能における加齢変化、高齢者に特徴的な症候を背景に、高齢者理学療法における代表的な生活機能評価および運動介入の具体的な方法論について演習する。
		学習目標	高齢者に対する生活機能評価について理解し、実際に適用できること。 高齢者に対する運動介入について理解し、実際に適用できること。
		授業計画	1. 高齢者に対する生活機能評価：認知機能 2. 高齢者に対する生活機能評価：精神機能 3. 高齢者に対する生活機能評価：筋力 4. 高齢者に対する生活機能評価：姿勢バランス 5. 高齢者に対する生活機能評価：歩行 6. 高齢者に対する生活機能評価：活動・参加 7. 高齢者の機能障害に対する運動療法：筋力 8. 高齢者の機能障害に対する運動療法：姿勢バランス 9. 高齢者の機能障害に対する運動療法：歩行 10. 高齢者の機能障害に対する運動療法：functional task-specific exercise 11. 高齢者の機能障害に対する運動療法：combined functional training 12. 中枢神経疾患を有する高齢者の理学療法に関するトピックス 13. 骨関節疾患を有する高齢者の理学療法に関するトピックス 14. 認知機能障害を有する高齢者の理学療法に関するトピックス 15. まとめ
		評価方法	
		受講態度(20%)、レポート(40%)、プレゼンテーション(40%)	

運動機能障害 作業療法学演習	森田 千晶 (運動器障害 作業療法学)	講義概要
		運動器障害における作業療法の実践について考察する
		学習目標
		運動器障害の作業療法の実践について、その専門性を理解し、作業療法の過程を説明できる
		授業計画
		1. オリエンテーション Occupational Therapy and Physical Dysfunctionから運動器障害の項目を輪読し考察する
		2. Spinal Cord Injury 1 3. Spinal Cord Injury 2
		4. Spinal Cord Injury 3 5. Rheumatoid Arthritis 1
		6. Rheumatoid Arthritis 2 7. Rheumatoid Arthritis 3
		8. Upperlimb Amputation 1 9. Upperlimb Amputation 2
		10. Upperlimb Amputation 3 11. Orthopaedic Conditions 1
		12. Orthopaedic Conditions 2 13. Hand Impairments 1
		14. Hand Impairments 2 15. まとめ
		評価方法
		受講態度 (20%)、レポート (60%)、プレゼンテーション (20%)
精神障害 作業療法学演習	長谷川 利夫 (精神障害 作業療法学)	講義概要
		我が国の精神保健の歴史を踏まえながら、精神障害作業療法の特質について理解し、これからの精神医療における作業療法の役割を探究する。
		学習目標
		精神障害領域における作業療法の治療構造、理論、具体的介入方法について理解したうえで、精神医療における作業療法の役割を理解する。
		授業計画
		1. 我が国の精神保健の歩み (1) 2. 我が国の精神保健の歩み (2)
		3. 我が国の精神保健の歩み (3) 4. 我が国の精神保健の歩み (4)
		5. 精神障害作業療法における非構成的評価(1)
		6. 精神障害作業療法における非構成的評価(2)
		7. 精神障害作業療法における非構成的評価(3)
		8. 精神障害作業療法の特質
		9. 精神医療と行動制限(1) 10. 精神医療と行動制限(2)
		11. 精神医療と行動制限 (4) 12. 精神医療と行動制限 (4)
		13. 作業療法における介入方法 14. 精神障害作業療法と諸理論
		15. これからの精神障害作業療法
		評価方法
		受講態度(20%)、レポート(60%)、プレゼンテーション(20%)
神経系 作業療法学演習	丹羽 正利 (中枢神経障害 作業療法学)	講義概要
		中枢神経系のメカニズムやその障害における作業療法について、実験データおよび関連論文より検討する。
		学習目標
		中枢神経系のメカニズムやその障害における作業療法について、実験データおよび関連論文を通じて理解することを目的とする。
		授業計画
		1. 中枢神経系のメカニズム
		2. 中枢神経障害のメカニズム
		3. 中枢神経障害の臨床症状 (4回)
		4. 中枢神経障害の作業療法に関する文献的考察 (4回)
		5. 中枢神経障害の回復メカニズムの考察 (5回)
		評価方法
		レポート(50%)、プレゼンテーション(30%)、受講態度(20%)

神経心理学的 検査法演習	下田 信明 (認知障害 作業療法学)	講義概要	代表的な神経心理学的検査の目的・方法およびその検査を用いた臨床の実際や研究の動向について教授する。
		学習目標	代表的な神経心理学的検査法の目的・方法およびその検査を用いた臨床の実際や研究の動向について理解する。
		授業計画	1. 神経心理学的検査とは 2. 知的機能 (その1) 3. 知的機能 (その2) 4. 注意機能 (その1) 5. 注意機能 (その2) 6. 記憶 (その1) 7. 記憶 (その2) 8. 言語 (その1) 9. 言語 (その2) 10. 半側無視 (その1) 11. 半側無視 (その2) 12. 半側無視 (その3) 13. 運動・動作 (その1) 14. 運動・動作 (その2) 15. まとめ
		評価方法	
			受講態度(20%)、レポート(60%)、プレゼンテーション(20%)

Ⅲ. 特別研究

授業科目	担当者	講義概要
特別研究	齋藤 昭彦 (運動障害系 理学療法学)	研究テーマおよび研究方法を明確にし、自立した研究活動を展開するための方略を習得する。
		学習目標
		研究テーマおよび研究方法を明確にし、研究計画書を作成する。
		授業計画
		1. 研究テーマの明確化 (8回) 2. 先行研究の考察 (12回) 3. 研究方法の検討 (6回) 4. 研究計画書の作成 (4回)
		評価方法 授業態度 (40%)、プレゼンテーション (20%)、研究計画書 (40%)
特別研究	潮見 泰藏 (神経発達障害系 理学療法学)	講義概要
		各自の研究分野における研究方法を学び、研究テーマに沿った文献検討を行った後、調査・実験等の手法を用いてデータを収集し、論文作成の過程を通して学術論文として公表する能力を習得する。
		学習目標
		研究の課題に基づいて学術論文を作成する。
		授業計画
		1. 研究課題の決定 (研究テーマの明確化) (2回) 2. 研究デザインの選定 (2回) 3. 研究課題に関する文献の検討・討論 (6回) 4. 研究計画書の作成 (3回) 5. 収集データの検討・討論 (5回) 6. 論文作成の指導 (10回) 7. プレゼンテーションの検討 (2回)
評価方法 論文 (80%)、論文作成への取り組み (10%)、口頭試問 (10%)		
特別研究	八並 光信 (内部障害系 理学療法学)	講義概要
		各自の研究テーマに沿って、先行研究の分析、自己の研究との比較して研究計画を立案し、研究結果に対して考察を加えながら修正できようように討議する。最終的に、学術論文を作成できる能力を身につける。
		学習目標
		各自の研究テーマで、学術論文を作成する。
		授業計画
		1-5. 先行研究の収集および解析研 6-10. 究計画の立案と修正 11-15. データの収集 16-20. データの解析 21-25. データ解析結果に対する考察 26-30. 論文作成とまとめ
評価方法 プレゼンテーション：口頭試問 (40%)、論文作成 (60%)		

保健学専攻・看護学専攻 博士前期課程

専攻共通科目

I. 臨床科目

授 業 科 目	担 当 者	講 義 概 要
精神医学	大 瀧 純 一 (看護養護教育学専攻)	20世紀初頭から急速に進歩した精神医学の概要を理解する。
		学 習 目 標
		精神疾患を病気としてとらえ、診断・治療・社会復帰にいたる過程を理解し、精神疾患の第2次予防、3次予防について会得する。
		授 業 計 画
		従来の分類である外因性精神疾患、内因性精神疾患、心理要因による精神疾患に分けて精神疾患全体を概説する。 1. 精神科の歴史 2. 病気としての精神疾患 3. 我が国における精神科の推移 4. クレペリン、プロイヤー 5. シュナイダー 6.フロイト、力動精神医学 7. せん妄を主とする外因性精神障害 8. 認知症を主とする外因性精神障害 9. 神経症性障害 10. ストレス関連障害 11. 統合失調症破瓜型 12. 統合失調症妄想型 13. 気分障害うつ病 14. 気分障害躁うつ病 15. 社会復帰に向けて
評 価 方 法		
		レポート80%、口頭試問20%
救急医学	和 田 貴 子 (救急救命学)	講 義 概 要
		臨床救急医学の重要性を認識し、医療機関で必要とされる救急医療システムや救急疾患、救急処置、救急症候などを教授する。
		学 習 目 標
		救急医学ならびに救急医療に必要な知識の習得を目標とする。
		授 業 計 画
		1. 救急医学の概念と救急医療システム 2. 医療における法的諸問題 3. 救急診断の目的・手順と緊急検査 4. 画像診断の基本 (X線、CT、MRI、超音波検査) 5. 画像診断の見方 (胸部・腹部・頭部X線) 6. 画像診断の見方 (CT、MRI、超音波検査) 7. 輸液・輸血 8. 救急処置 (CPAと二次救命処置法、胸腔ドレナージ、創処置、骨折の処置など) 9. 救急医薬品 (心血管作動薬、抗不整脈薬、鎮静・催眠薬、利尿薬、筋弛緩薬など) 10. ショックの概念、分類、原因、病態、治療など 11. 救急症候 (発熱、意識障害、腹痛、悪心・嘔吐、胸痛・背部痛など) 12. 救急症候 (失神、めまい、不整脈、喀血、吐下血、異物など) 13. 心血管系救急疾患、消化器系救急疾患、その他の救急疾患 14. 感染症と敗血症 15. 環境障害、溺水など
評 価 方 法		
		筆記試験 (90%)、受講態度 (10%)
神経内科学	小 池 秀 海 (神経生理学)	講 義 概 要
		神経系の解剖生理学を復習したうえで、神経系の障害によって出現する神経症候の発現機序を解説し、あわせてパラメディカルな職種の人にも役立つ診かたについて学ぶ。
		学 習 目 標
		1. 神経系の解剖生理学の概要がわかる。 2. 麻痺や感覚障害などの神経症候の診かたを修得するとともに、それらの発現機序、責任病巣が説明できる。
		授 業 計 画
		1. 神経系の解剖生理の概要および患者の問診方法の基礎 2. 運動系：運動麻痺、調節系 (5回) 3. 眼の神経学：視覚、眼球運動、瞳孔 (2回) 4. 体性感覚系 5. 覚醒と睡眠 6. 意識障害 7. 注意、失語症 8. 認知症 9. 局在診断 (中枢神経系) 10. 局在診断 (末梢神経、筋)
評 価 方 法		
		毎回の受講態度と質疑および討論内容で判断する (100%)。

循環器病学	四倉 正之 (循環器病態生理学)	講義概要	虚血性心疾患、心不全、不整脈、高血圧等の循環器疾患の病態と治療に関する基礎知識および最近の知見を解説する。																
		学習目標	虚血性心疾患、心不全、高血圧およびその他の循環器疾患の基礎知識と最近の知見を習得する。不整脈の病態および治療の基礎知識と最近の知見を習得する。																
		授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 虚血性心疾患の病態</td> <td>2. 虚血性心疾患の診断法</td> </tr> <tr> <td>3. 虚血性心疾患の治療 (薬物療法)</td> <td>4. 虚血性心疾患の治療 (PCI)</td> </tr> <tr> <td>5. 心不全の病態</td> <td>6. 心不全をきたす疾患 I</td> </tr> <tr> <td>7. 心不全をきたす疾患 I I</td> <td>8. 不整脈の基礎</td> </tr> <tr> <td>9. 頻脈性不整脈</td> <td>10. 徐脈性不整脈</td> </tr> <tr> <td>11. 電気生理学的検査</td> <td>12. 不整脈の薬物療法</td> </tr> <tr> <td>13. 不整脈の非薬物療法</td> <td>14. 高血圧の病態</td> </tr> <tr> <td>15. 高血圧の治療</td> <td></td> </tr> </table>	1. 虚血性心疾患の病態	2. 虚血性心疾患の診断法	3. 虚血性心疾患の治療 (薬物療法)	4. 虚血性心疾患の治療 (PCI)	5. 心不全の病態	6. 心不全をきたす疾患 I	7. 心不全をきたす疾患 I I	8. 不整脈の基礎	9. 頻脈性不整脈	10. 徐脈性不整脈	11. 電気生理学的検査	12. 不整脈の薬物療法	13. 不整脈の非薬物療法	14. 高血圧の病態	15. 高血圧の治療	
		1. 虚血性心疾患の病態	2. 虚血性心疾患の診断法																
		3. 虚血性心疾患の治療 (薬物療法)	4. 虚血性心疾患の治療 (PCI)																
5. 心不全の病態	6. 心不全をきたす疾患 I																		
7. 心不全をきたす疾患 I I	8. 不整脈の基礎																		
9. 頻脈性不整脈	10. 徐脈性不整脈																		
11. 電気生理学的検査	12. 不整脈の薬物療法																		
13. 不整脈の非薬物療法	14. 高血圧の病態																		
15. 高血圧の治療																			
評価方法	受講態度(20%)、レポート(40%)、口頭試問(40%)																		
呼吸器病学	小林 治 (医療科学Ⅱ)	講義概要	生命予後に関わる重大な感染症の一つである呼吸器感染症について学び、呼吸器感染症の看護能力																
		学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 呼吸器感染症の成り立ちと予後を理解する 状況に応じた呼吸器感染症の特徴がある事を理解する 呼吸器感染症のトリアージ能力を習得する 																
		授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 呼吸器感染症を見逃さない看護スキル</td> <td>2. 呼吸器感染症の発生・診断・治療</td> </tr> <tr> <td>3. 高齢化と呼吸器感染症</td> <td>4. 糖尿病と呼吸器感染症</td> </tr> <tr> <td>5. 膠原病・腎不全と呼吸器感染症</td> <td>6. 肝疾患と呼吸器感染症</td> </tr> <tr> <td>7. 後天性免疫不全症候群と呼吸器感染症</td> <td>8. 癌と呼吸器感染症</td> </tr> <tr> <td>9. 臓器移植と呼吸器感染症</td> <td>10. 長期ICU滞在者と呼吸器感染症</td> </tr> <tr> <td>11. 細菌性呼吸器感染症</td> <td>12. 真菌性呼吸器感染症</td> </tr> <tr> <td>13. ウイルス性呼吸器感染症</td> <td>14. 呼吸器感染症と鑑別を要する病態</td> </tr> <tr> <td>15. まとめ</td> <td></td> </tr> </table>	1. 呼吸器感染症を見逃さない看護スキル	2. 呼吸器感染症の発生・診断・治療	3. 高齢化と呼吸器感染症	4. 糖尿病と呼吸器感染症	5. 膠原病・腎不全と呼吸器感染症	6. 肝疾患と呼吸器感染症	7. 後天性免疫不全症候群と呼吸器感染症	8. 癌と呼吸器感染症	9. 臓器移植と呼吸器感染症	10. 長期ICU滞在者と呼吸器感染症	11. 細菌性呼吸器感染症	12. 真菌性呼吸器感染症	13. ウイルス性呼吸器感染症	14. 呼吸器感染症と鑑別を要する病態	15. まとめ	
		1. 呼吸器感染症を見逃さない看護スキル	2. 呼吸器感染症の発生・診断・治療																
		3. 高齢化と呼吸器感染症	4. 糖尿病と呼吸器感染症																
5. 膠原病・腎不全と呼吸器感染症	6. 肝疾患と呼吸器感染症																		
7. 後天性免疫不全症候群と呼吸器感染症	8. 癌と呼吸器感染症																		
9. 臓器移植と呼吸器感染症	10. 長期ICU滞在者と呼吸器感染症																		
11. 細菌性呼吸器感染症	12. 真菌性呼吸器感染症																		
13. ウイルス性呼吸器感染症	14. 呼吸器感染症と鑑別を要する病態																		
15. まとめ																			
評価方法	ペーパーテスト(100%)																		
腎臓病学特論	副島 昭典 (血液浄化療法学)	講義概要	腎機能の低下による広範な全身性の代謝異常を理解し得る専門的な知識を習得させる。																
		学習目標	腎不全患者でみられる病態を理解し、適切な治療法が選択できる。																
		授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 腎臓の臨床解剖と微細構造</td> <td>2. 腎・尿路の画像診断</td> </tr> <tr> <td>3. 糸球体濾過と尿管再吸収-1</td> <td>4. 糸球体濾過と尿管再吸収-2</td> </tr> <tr> <td>5. 体液の組成</td> <td>6. 酸塩基平衡</td> </tr> <tr> <td>7. 原発性糸球体疾患-1</td> <td>8. 原発性糸球体疾患-2</td> </tr> <tr> <td>9. 尿管間質性腎炎</td> <td>10. 急性腎不全/慢性腎不全</td> </tr> <tr> <td>11. アクアポリン、メガリンとキュピリン</td> <td>12. 副甲状腺ホルモンと骨代謝</td> </tr> <tr> <td>13. 腎性貧血とエリスロポエチン、ヘプシジン</td> <td>14. ビタミンDの活性化とFGF23</td> </tr> <tr> <td>15. まとめ</td> <td></td> </tr> </table>	1. 腎臓の臨床解剖と微細構造	2. 腎・尿路の画像診断	3. 糸球体濾過と尿管再吸収-1	4. 糸球体濾過と尿管再吸収-2	5. 体液の組成	6. 酸塩基平衡	7. 原発性糸球体疾患-1	8. 原発性糸球体疾患-2	9. 尿管間質性腎炎	10. 急性腎不全/慢性腎不全	11. アクアポリン、メガリンとキュピリン	12. 副甲状腺ホルモンと骨代謝	13. 腎性貧血とエリスロポエチン、ヘプシジン	14. ビタミンDの活性化とFGF23	15. まとめ	
		1. 腎臓の臨床解剖と微細構造	2. 腎・尿路の画像診断																
		3. 糸球体濾過と尿管再吸収-1	4. 糸球体濾過と尿管再吸収-2																
5. 体液の組成	6. 酸塩基平衡																		
7. 原発性糸球体疾患-1	8. 原発性糸球体疾患-2																		
9. 尿管間質性腎炎	10. 急性腎不全/慢性腎不全																		
11. アクアポリン、メガリンとキュピリン	12. 副甲状腺ホルモンと骨代謝																		
13. 腎性貧血とエリスロポエチン、ヘプシジン	14. ビタミンDの活性化とFGF23																		
15. まとめ																			
評価方法	受講態度(10%)、レポート(60%)、口頭試問(30%)																		
臨床疫学	照屋 浩司 (公衆衛生学)	講義概要	本講では、EBM(Evidence Based Medicine)、臨床疫学などの分野における題材を用いた演習を中心に、疫学の理論について論じるとともに、必要な統計手法についても解説する。また、受講者の希望に応じて疫学のやや基礎的な解説も行う。																
		学習目標	自身の研究や文献の抄読に役立てるために、疫学の基本的な考え方や手法を理解する。																
		授業計画	<table border="0"> <tr> <td>1. 疫学とは</td> <td>2. 疫学研究方法</td> </tr> <tr> <td>3. 因果関係とは</td> <td>4. 疫学指標と危険度の考え方(2回)</td> </tr> <tr> <td>5. 統計学的解析の基礎(2回)</td> <td>6. 疫学研究に伴う誤差</td> </tr> <tr> <td>7. 診断の適否</td> <td>8. 治療の効果</td> </tr> <tr> <td>9. 演習 I (3回)</td> <td>10. 演習 II (2回)</td> </tr> </table>	1. 疫学とは	2. 疫学研究方法	3. 因果関係とは	4. 疫学指標と危険度の考え方(2回)	5. 統計学的解析の基礎(2回)	6. 疫学研究に伴う誤差	7. 診断の適否	8. 治療の効果	9. 演習 I (3回)	10. 演習 II (2回)						
		1. 疫学とは	2. 疫学研究方法																
		3. 因果関係とは	4. 疫学指標と危険度の考え方(2回)																
5. 統計学的解析の基礎(2回)	6. 疫学研究に伴う誤差																		
7. 診断の適否	8. 治療の効果																		
9. 演習 I (3回)	10. 演習 II (2回)																		
評価方法	受講態度(60%)、レポートないし口頭試問(40%)																		

専門横断モジュール科目Ⅱ	加藤 英世 八巻 明子 関野 浩一 中野 尚子 岸田 泰子 菰田 照子 島幸夫 岡田 洋二 四倉 正之 長谷川 利夫 榎本 雪絵 下田 信明	講義概要
		多様な専門分野の教員を擁する本研究科のメリットを活かし、ライフステージを出生前・新生児期・乳幼児・小児期、思春期・青年期、壮年期・老年期に分けて、それぞれのステージにおける保健・医療・福祉の話題について専門の教員がオムニバスで授業を行う。視野を広げ様々な研究分野への関心が高まることが期待される。社会人が休暇を取得する中で効率的に講義を受けられるよう1月中旬～2月中旬に数日に分けて集中で行う。
		学習目標
		専門横断モジュール科目Ⅰと同様、講義のあとにディスカッションを行い教員と学生が双方向性に意見交換を行うことで、様々な視点での思考能力を高めることを学習目標とする。
		授業計画
		1-2. (出生前、新生児期) 遺伝子疾患と遺伝子診断 (1) (2) (八巻) 3-4. (出生前、新生児期) 染色体異常と着床前・出生前診断 (1) (2) (関野) 5. (乳幼児・小児期) 極低出生体重児におけるGeneral Movementsと発達予後の関係 (中野) 6-7. (乳幼児・小児期) 広汎性発達障害の基礎と臨床 (1) (2) (加藤) 8. (思春期・青年期) 思春期の性行動 (岸田) 9. (思春期・青年期) クラミジア感染症の基礎 (菰田) 10. (壮年期・老年期) 生活習慣病の遺伝 (島) 11. (壮年期・老年期) 生活習慣病の化学 (岡田) 12. (壮年期・老年期) 生活習慣病の臨床～虚血性心疾患～ (四倉) 13. (壮年期・老年期) 精神障害のリハビリテーション (長谷川) 14. (老年期) 地域リハビリテーション～理学療法と連携～ (榎本) 15. (老年期) 認知症のリハビリテーション (下田)
		評価方法
		受講態度(ディスカッション50%)、レポート(50%)

《今年度休講科目》
 ・専門横断モジュール科目Ⅲ